

牛肉に関する消費者調査

2026年3月 お客様志向推進部
ライフスタイル研究チーム



たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

I 調査概要

II 牛肉総論

- ①牛肉に対する好意度 …P7
- ②自宅で食べる部位・形態 …P8
- ③自宅で作る牛肉メニュー/中食利用する牛肉メニュー …P9

III 牛肉の購入や調理等に関する実態調査

(牛肉の購入について)

- ①購入実態 1年以内に購入した牛肉の種類(産地)/種類(産地)別詳細 …P13~14
- ②種類別の利用シーン (国産派・使い分け派・輸入派) …P15~18
- ③牛肉の購入頻度 …P19
- ④1回の買い物で購入する量 …P20
- ⑤牛肉を買う時に重視すること …P21
- ⑥和牛・国産牛・輸入牛の購入者属性・購入した牛肉を食べる人 …P22~24
- ⑦輸入牛 部位別の購入者属性 …P25~27
- ⑧値上げを実感する牛肉 …P28~29
- ⑨値上げを実感する各種牛肉の代替品 …P30~31
- ⑩牛肉の代替品として「輸入牛」を購入する時の気持ち …P32
- ⑪牛肉の代替品として「輸入牛」を購入する時の不満 …P33

(牛肉の調理について)

- ⑫牛肉の調理頻度 …P35
- ⑬自宅で調理する頻度が高い牛肉の部位・形態 …P36
- ⑭自宅で牛肉を調理する際の不満点 …P37

I) 調査概要

- 調査名 : 牛肉に関する消費者意識調査
- 目的 : 牛肉の好意度、種類別の購入実態や調理実態等を調査し、消費者の気持ちや行動を知ったうえで、今後も牛肉の安定供給・需要喚起に貢献していきます。
- 調査年月 : 2025年10月
- 手法 : webアンケート
- 対象者 : **Ⅱ牛肉総論**

(牛肉の好意度)

全国20歳以上の男女 計4,221人 (Ⅱ①)

(3カ月以内に自宅で食べた部位・形態/内食・中食メニュー)

全国20歳以上の男女のうち、好意度調査で「牛肉は食べない」以外を選んだ人 計4,007人 (Ⅱ②③)

Ⅲ牛肉の購入や調理等に関する実態調査

(牛肉の購入頻度・調理頻度について)

全国20歳以上の男女のうち、ご家庭において食事準備を主に担う人 計1,353人 (Ⅲ③⑫)

(牛肉の購入について)

全国20歳以上の男女のうち、
ご家庭において食事準備を主に担う人で牛肉を購入すると答えた人 計1,234人 (Ⅲ①-(1)②④⑤)

(値上げの実感、代替品購入について)

全国20歳以上の男女のうち、
ご家庭において食事準備を主に担う人で、1年以内にいずれかの牛肉を購入した人 計1,066人 (Ⅲ⑧⑨⑩⑪)

(牛肉の調理について)

全国20歳以上の男女のうち、
ご家庭において食事準備を主に担う人で牛肉を調理すると答えた人 計1,233人 (Ⅲ⑬⑭)

I) 調査概要

調査対象者 人数別内訳 詳細：性別・年齢・世帯構成・地域

単位：人

II 牛肉総論
全国20歳以上の
男女
※WBあり

好意度調査で
牛肉は食べないと
答えた人以外

全体		4007
性別	男性	1940
	女性	2067
年齢	20歳～29歳	445
	30歳～39歳	487
	40歳～49歳	613
	50歳～59歳	718
	60歳～69歳	593
	70歳以上	1151
地域	北海道	188
	東北地方	230
	関東地方	1609
	中部地方	569
	近畿地方	817
	中国地方	192
	四国地方	83
	九州地方	319
世帯構成	単身	761
	夫婦	1188
	ファミリー	2057

III 牛肉の購入や調理等に関する実態調査
全国20歳以上の男女のうち、ご家庭において食事準備を主に担う人

牛肉を購入する人

全体		1353
性別	男性	421
	女性	932
年齢	20歳～29歳	220
	30歳～39歳	219
	40歳～49歳	215
	50歳～59歳	221
	60歳～69歳	217
	70歳以上	261
地域	北海道	70
	東北地方	53
	関東地方	575
	中部地方	197
	近畿地方	274
	中国地方	59
	四国地方	29
	九州地方	96
世帯構成	単身	387
	夫婦	315
	ファミリー	651

全体		1234
性別	男性	374
	女性	860
年齢	20歳～29歳	203
	30歳～39歳	200
	40歳～49歳	191
	50歳～59歳	195
	60歳～69歳	209
	70歳以上	236
地域	北海道	58
	東北地方	47
	関東地方	519
	中部地方	177
	近畿地方	257
	中国地方	58
	四国地方	29
	九州地方	89
世帯構成	単身	319
	夫婦	299
	ファミリー	616

1年以内に
いずれかの
牛肉を
購入した人

全体		1066
性別	男性	317
	女性	749
年齢	20歳～29歳	182
	30歳～39歳	167
	40歳～49歳	157
	50歳～59歳	160
	60歳～69歳	186
	70歳以上	214
地域	北海道	44
	東北地方	40
	関東地方	451
	中部地方	144
	近畿地方	230
	中国地方	52
	四国地方	27
	九州地方	78
世帯構成	単身	241
	夫婦	268
	ファミリー	557

牛肉を調理する人

全体		1233
性別	男性	373
	女性	860
年齢	20歳～29歳	202
	30歳～39歳	201
	40歳～49歳	191
	50歳～59歳	194
	60歳～69歳	209
	70歳以上	236
地域	北海道	58
	東北地方	48
	関東地方	518
	中部地方	176
	近畿地方	257
	中国地方	58
	四国地方	29
	九州地方	89
世帯構成	単身	316
	夫婦	298
	ファミリー	619

※WB：日本の性別・年代別人口に合わせた割り戻し計算を行っています

II. 牛肉総論

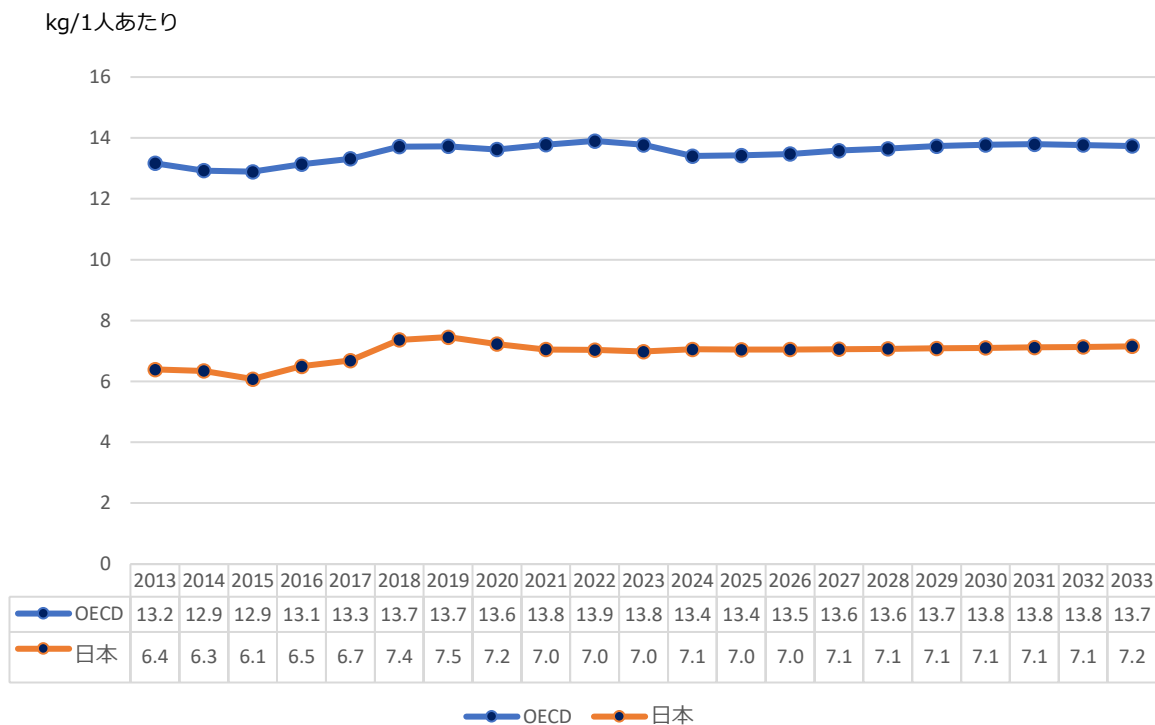
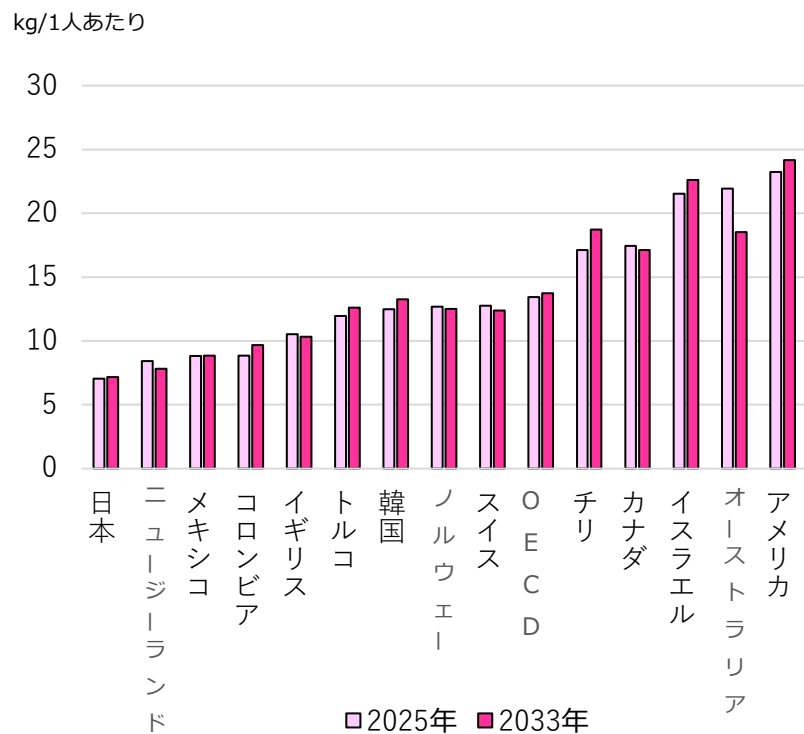
II)Point

- 2025年時点の日本人の年間牛肉消費量は7.0kg。2033年の消費量は7.2kgと現在からほぼ横ばいの予測。
- OECD加盟国平均と比較すると、日本人の年間牛肉消費量は6.8kg少ない。
- 牛肉の好意度について、「好き・やや好き」と答えた人は全体の8割弱。
- 「牛肉が好き」と答えた人の年代別属性では60代以上、地方別では近畿地方が高い。
- 自宅で食べる牛肉の部位・形態は「モモ小間切れ・切り落とし」「牛ひき肉」「バラ（カルビ）」が高い。
「モモ」や「バラ」は焼き肉用や小間切れなど、調理の汎用性の高い形態が選ばれている。
- 「焼肉」「牛肉と野菜の炒め物」等多くの牛肉メニューは中食よりも自宅での喫食機会が多い。
「牛丼」「ハンバーグ」は内食の方が高いが、中食でも高い喫食率。
「コロッケ・メンチカツ」「ハンバーガー」は中食利用の方が高い。

II)はじめに

- 2025年時点の日本人の年間牛肉消費量は7.0kgで、OECD加盟国平均より6.8kg少ない。
2033年の消費量は7.2kgと現在からほぼ横ばいの予測。
- 日本の年間牛肉消費量は、2013年から2033年までの20年間で0.8kg増加する見込み。

【1人あたり 年間食肉消費量 推移】



出典 : OECD (2025), Meat consumption (indicator). doi: 10.1787/fa290fd0-en (Accessed on 17 March 2026)
(<https://data.oecd.org/agroutput/meat-consumption.htm>)

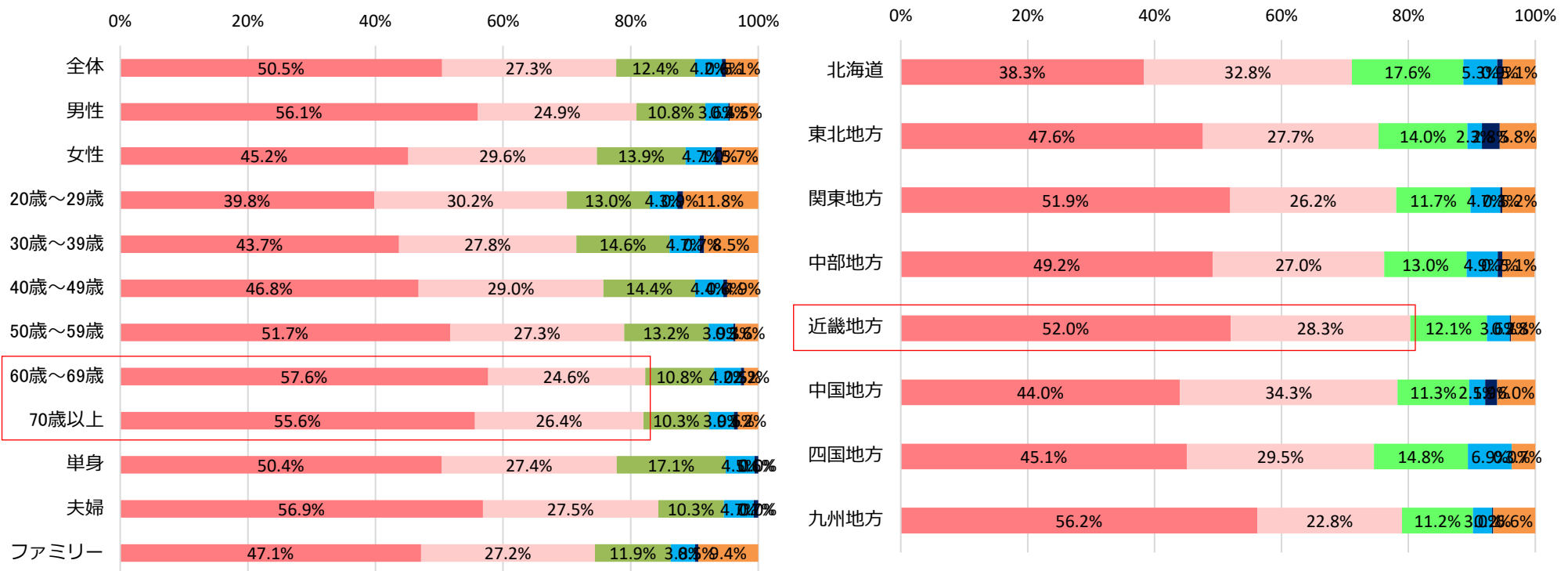
II) ①牛肉に対する好意度

- 「牛肉が好き・やや好き」と答えた人は全体の8割弱と高い割合。
- 「牛肉が好き」と答えた人の年代別属性は、60代以上が8割超え。
- 「牛肉が好き」と答えた人の地方別属性では、近畿が8割と高め。

Q あなたは牛肉が好きですか。あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。

n=4,221

■好き ■やや好き ■どちらでもない ■あまり好きではない ■嫌い ■牛肉は食べない



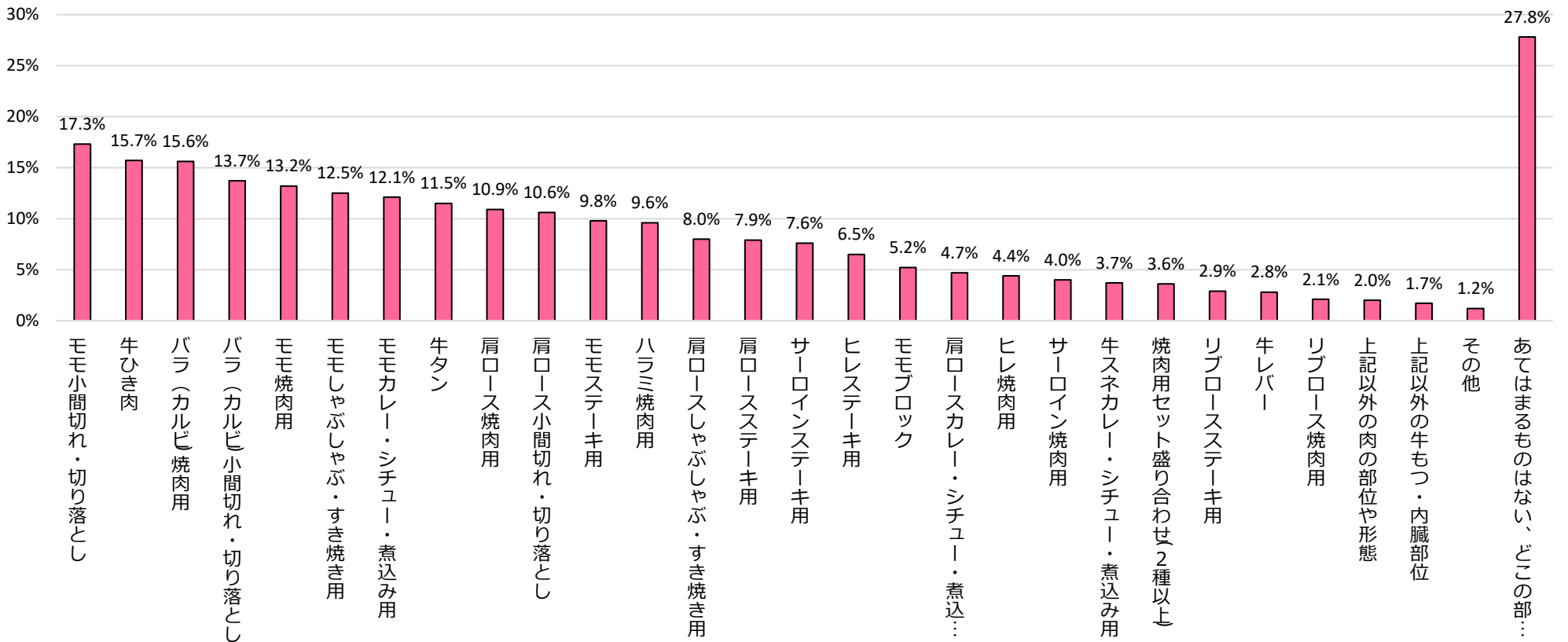
Ⅱ)②自宅で食べる部位・形態

■自宅で食べる牛肉の部位・形態は多い順に「モモ小間切れ・切り落とし」「牛ひき肉」「バラ（カルビ）」。

■「モモ」や「バラ」は焼き肉用や小間切れなど、調理の汎用性の高い形態が選ばれている。

n=4,007

Q 自宅で3カ月以内に食べた牛肉の部位やその形態を教えてください。

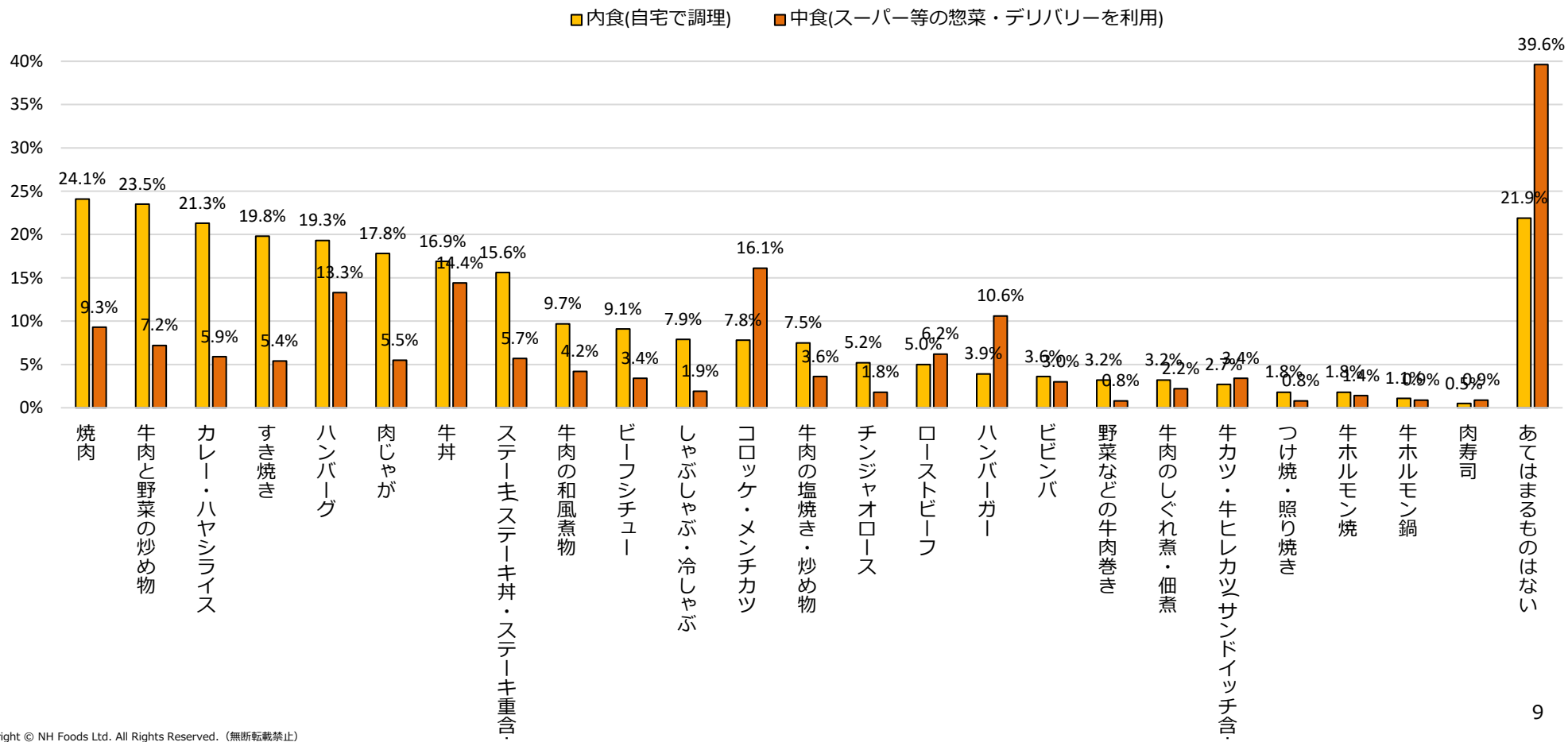


Ⅱ)③自宅で作る牛肉メニュー/中食利用する牛肉メニュー

- 「焼肉」「牛肉と野菜の炒め物」「カレー・ハヤシライス」等多くの牛肉メニューは中食よりも自宅での喫食機会が多い。「牛丼」「ハンバーグ」は内食の方が高いが、中食でも高い喫食率。
- 「コロッケ・メンチカツ」「ハンバーガー」は中食利用の方が高い。

Q あなたが3カ月以内に食べた、牛肉を使ったメニューや食品について、それぞれの状況(内食/中食)別に教えてください。

n=4,007



Ⅲ.牛肉の購入や調理等に関する実態調査

Ⅲ)Point-(1) 牛肉の購入について

- 1年以内に最も購入された牛肉は国産牛で、例年6割前後。

日本産と輸入牛の「使い分け派」が5割弱と最も多い。「使い分け派」は9割近くが国産牛を購入し、6～7割がオーストラリア産やアメリカ産の輸入牛を購入している。

- 購入した牛肉はどの種類も、自身やパートナー・配偶者による消費が主体。

- 利用シーンは、「少し贅沢をしたい日」「牛肉を味わいたい日」など、

ハレの日に利用されている。国産牛は日常使いのほか、特売・値引き時に利用される傾向。

輸入牛は日常使いのほか、「牛肉をたくさん食べたい日」に利用される点が特徴的。

- 牛肉の購入頻度は、週1回以上購入する人が全体では3割強。

「輸入派」は週1日以上割合が年々上昇しており、従来よりも高頻度に購入する傾向が強まっている。

1回の買い物の購入量は200g～300g前後が多いが、「輸入派」は小容量から中容量にシフトしている。

- 牛肉の購入時に重視することは、全体では内容量・価格・特売日など。

「国産派」は国産志向が強く、「輸入派」は価格の安さを最も重視する。

「使い分け派」は全体よりも幅広い項目を重視しており、総合的に判断して購入する牛肉を選んでいる。

➤ 国産派

国産のみ(和牛もしくは国産牛のどちらか、もしくは両方)を購入した人

➤ 使い分け派

国産(和牛+国産牛)に加えて、輸入牛のいずれかを1つ以上購入した人

➤ 輸入派

輸入牛のうちいずれか1つ以上を購入した人

Ⅲ)Point-(2) 牛肉の購入について

- 和牛・国産牛の購買者属性は、50~70代がボリュームゾーン。購入しやすい世代は60代以上で、特に70代と80代が安定して購入。自分自身が食べる場合、20代は和牛よりも国産牛の選択率が高い。
- 輸入牛全体の購買者属性は、40~70代まで幅広く、特に購入しやすい世代は30~50代。購入した輸入牛(オーストラリア産)の喫食者は、国産牛とほぼ同傾向。
- 輸入牛の部位別の購入者属性は、どの部位でもボリュームゾーンは40~70代。ばら、牛タン・内臓肉は30~50代と幅広い世代が購入しやすいが、ホルモンは40・50代と比較的年齢層が高め。
- 1年以内の値上げを実感する牛肉として最も高いのは「国産牛」。
「国産派」「使い分け派」は、国産牛に対して値上げを実感している人が6割超え。
- 値上げを実感する各種牛肉の代替品として「国産豚肉」や「国産鶏肉」を購入する人が2~3割程度。代替はせずに継続購入する人は「国産豚肉」に次いで高い。
- 値上げを実感している牛肉の代替品として「輸入牛」を購入する人の8割弱が輸入牛に満足している。
- 牛肉の代替品としての輸入牛への不満は「肉質が固い」が最も高く、特に「使い分け派」が肉質に不満を抱える。

Ⅲ)①-(1)購入実態 1年以内に購入した牛肉の種類(産地)



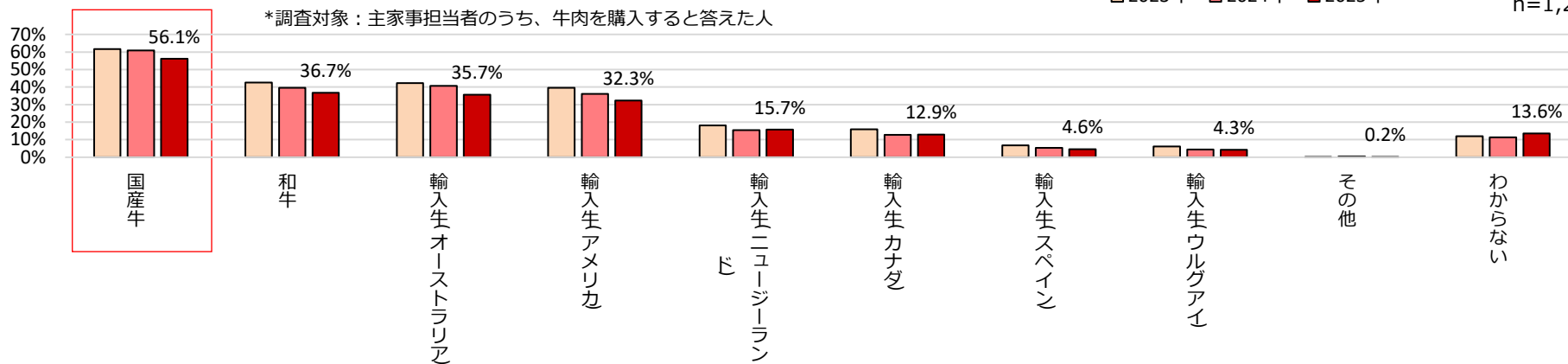
たんぱく質を、もっと自由に。

Nipponham Group Vision 2030

- 1年以内に最も購入された牛肉は国産牛で、例年6割前後。
- 輸入牛はオーストラリアやアメリカも3割強が購入しており、和牛とほぼ同等に購入されている。
- 購入した牛肉はどの種類も、自身やパートナー・配偶者による消費が中心。

Q あなたがここ1年以内に購入した牛肉について、あてはまるものを全て選んでください。

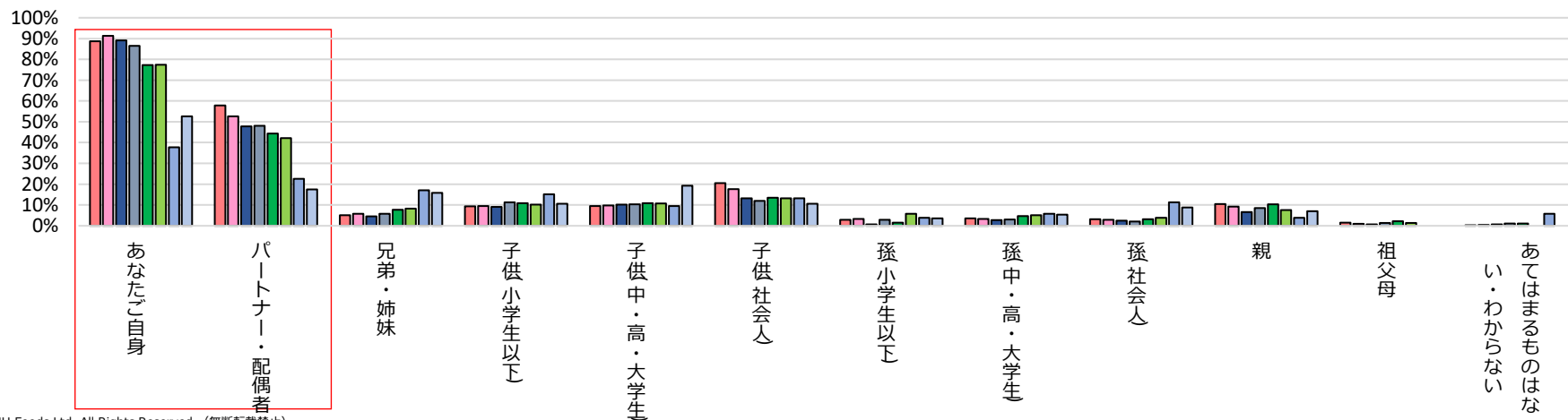
n=1,297(2023)
n=1,287(2024)
n=1,234(2025)



Q 1年以内に購入したことがある牛肉について、どなたが召し上がりましたか。

n=1,066

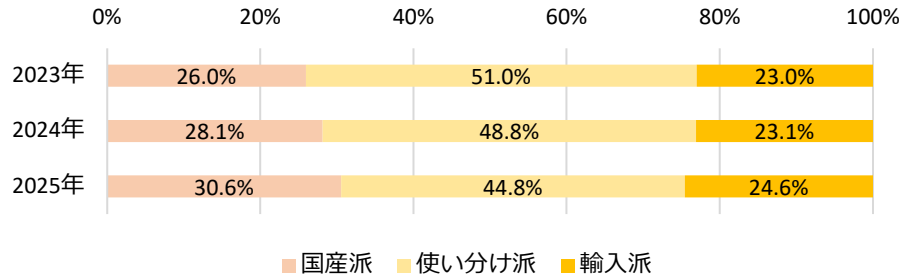
■和牛 ■国産牛 ■輸入牛(オーストラリア) ■輸入牛(アメリカ) ■輸入牛(ニュージーランド) ■輸入牛(カナダ) ■輸入牛(ウルグアイ) ■輸入牛(スペイン)



Ⅲ)①-(2)購入実態 種類(産地)別詳細

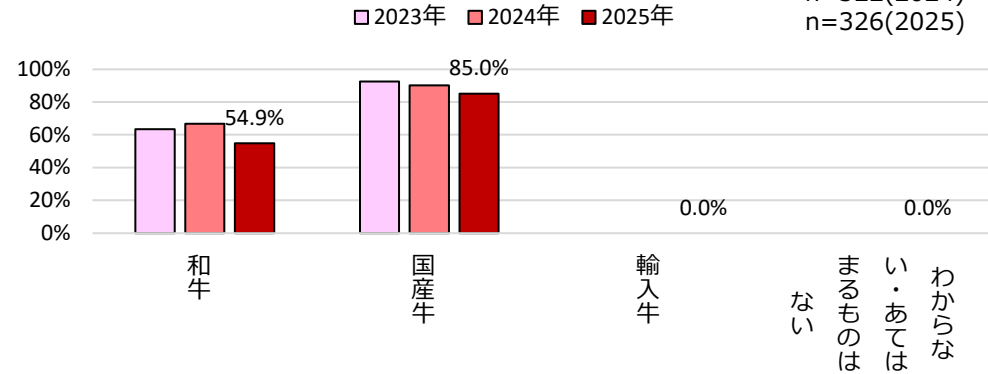
- 国産派・使い分け派・輸入派の比率は大きく変わらず、使い分け派が最も高く 5 割弱。
- 国産派は和牛より国産牛を選ぶ人が 3 割程度多い。
- 使い分け派は 9 割近くが国産牛を購入し、6~7 割がオーストラリアやアメリカ産の輸入牛を購入している。
- 輸入派はオーストラリア・アメリカ産が 4 割強、次いでニュージーランド・カナダ産が 2 割超え。

Q ここ 1年以内に購入した牛肉について、あてはまるものを全て選んでください。

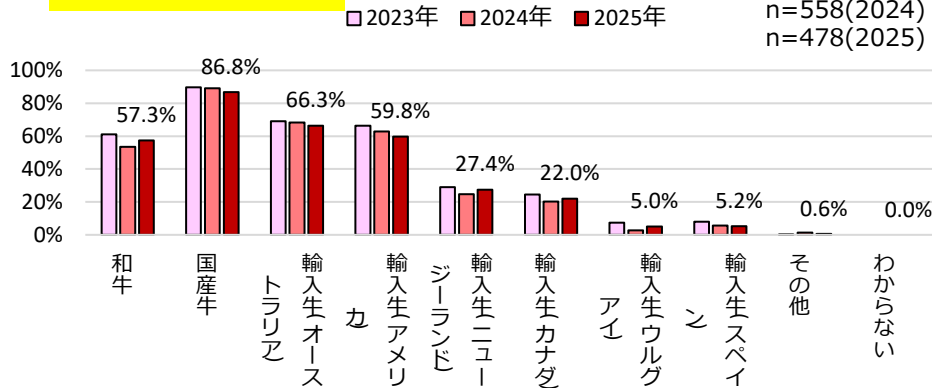


- ・ 国産派 : 国産のみ(和牛もしくは国産牛のどちらか、もしくは両方)を購入した人
- ・ 使い分け派 : 国産(和牛+国産牛)に加えて、輸入牛のいずれかを1つ以上購入した人
- ・ 輸入派 : 輸入牛のうちいずれか1つ以上を購入した人

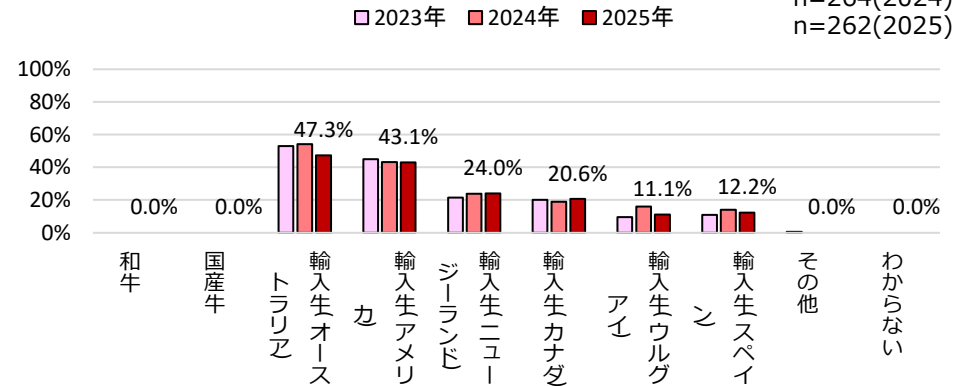
国産派



使い分け派



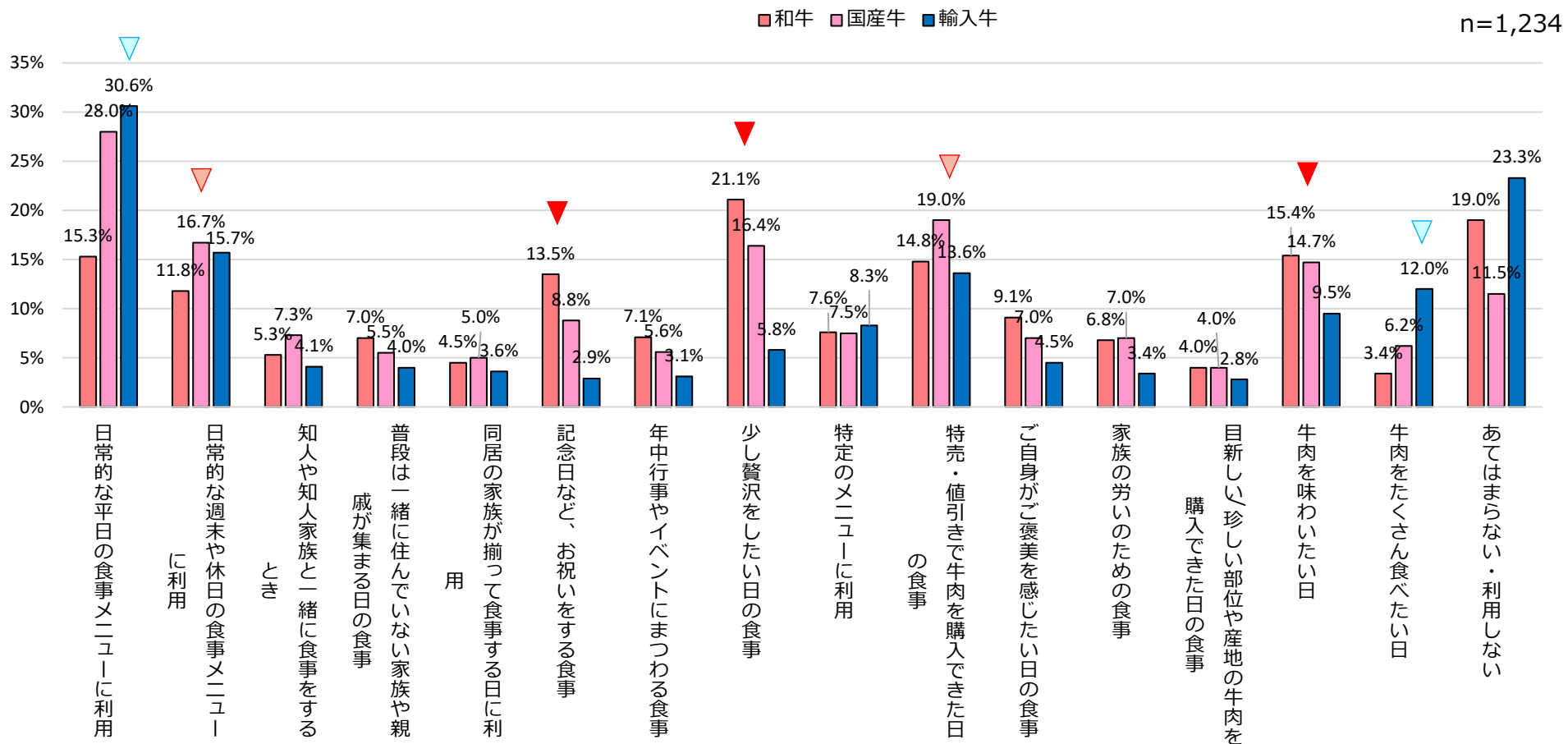
輸入派



Ⅲ)②種類別の利用シーン

- 和牛は「少し贅沢をしたい日」「牛肉を味わいたい日」などハレの日に利用されている。
- 国産牛は日常使いのほか、特売・値引き時に利用されている。多くの利用シーンで和牛と同傾向。
- 輸入牛は国産牛と同じく日常使いや、「牛肉をたくさん食べたい日」に利用される。

Q あなたの自宅での食事について、それぞれの牛肉を利用するシーンとして当てはまるものを全て教えてください。 *調査対象：牛肉を購入すると答えた人



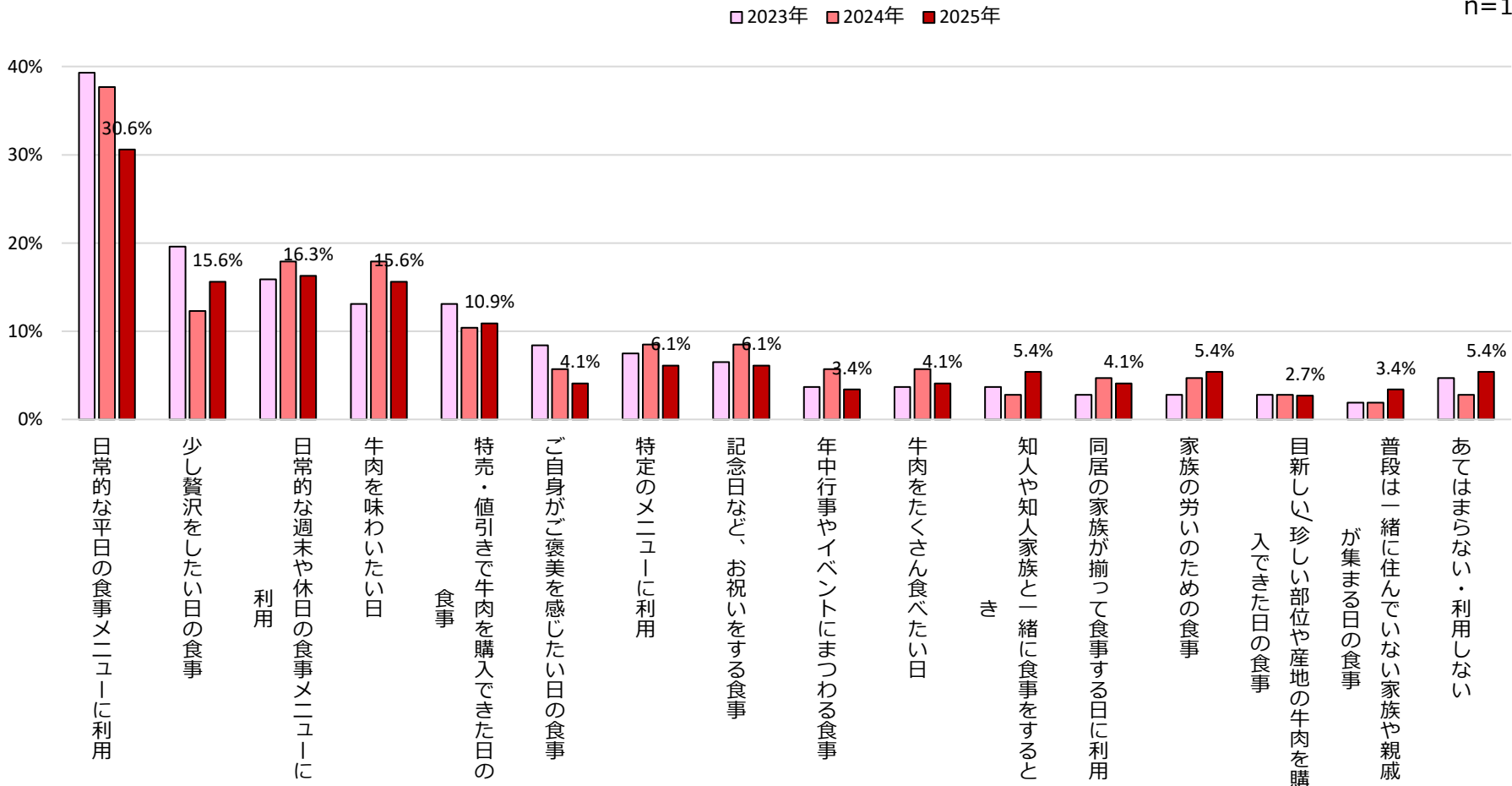
Ⅲ)②種類別の利用シーン

- 1年以内に国産牛のみを購入した人の利用シーンとしては「日常的な平日に食事メニューに利用」する人が最も多いが、昨年から7ポイント減少。

Q あなたの自宅での食事について、それぞれの牛肉を利用するシーンとして当てはまるものを全て教えてください。

国産牛の利用シーン ※1年以内に国産牛のみ購入した人の場合

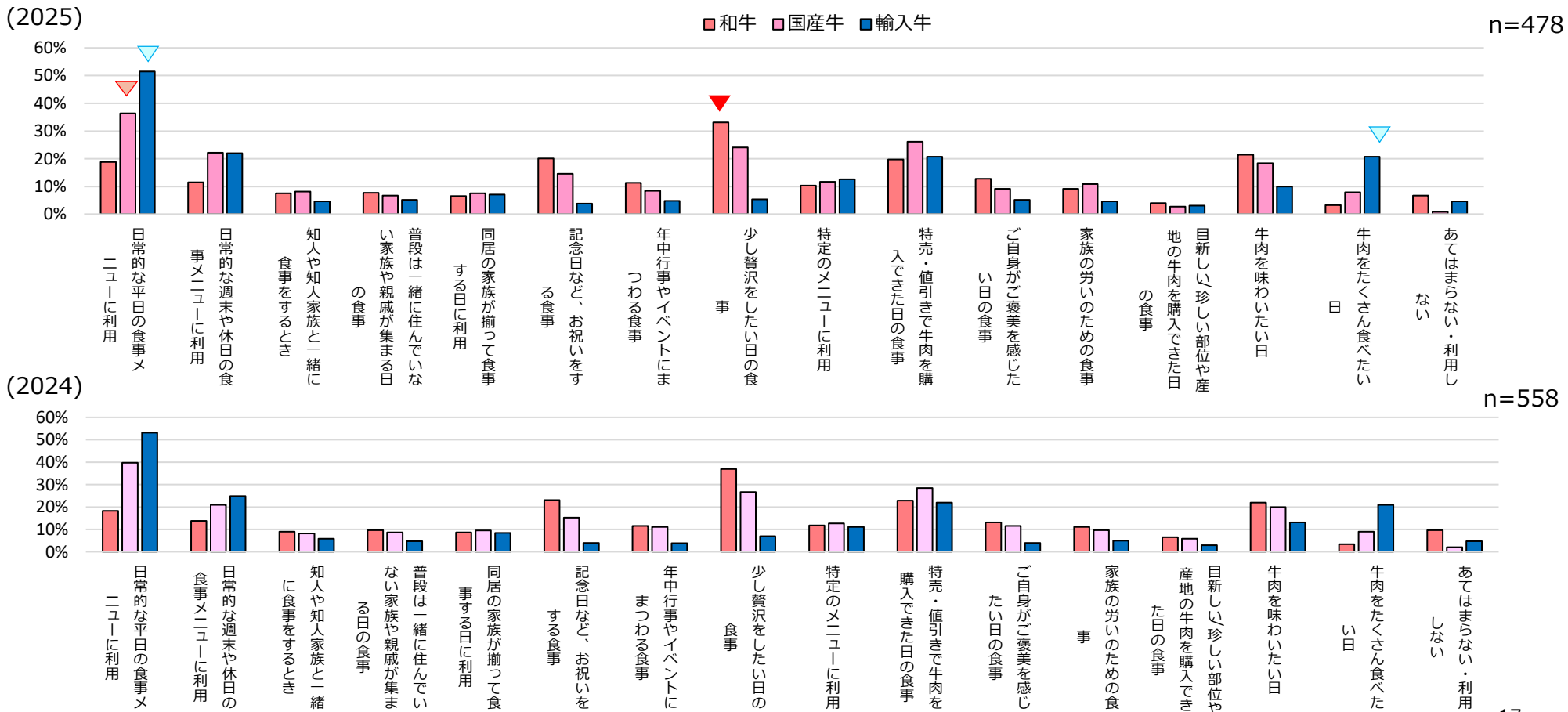
n=107(2023)
n=106(2024)
n=147(2025)



Ⅲ)②種類別の利用シーン

- 使い分け派の利用シーンは昨年調査と同傾向。
 - 和牛は「少し贅沢をしたい日」での利用が多い。
 - 輸入牛は国産牛と同様に日常使いのほか、「牛肉をたくさん食べたい日」の選択率が高い。
- Q あなたの自宅での食事について、それぞれの牛肉を利用するシーンとして当てはまるものを全て教えてください。

使い分け派：各種牛肉の利用シーン 1年以内に国産牛肉(和牛もしくは国産牛)と輸入牛の両方について購入経験がある人



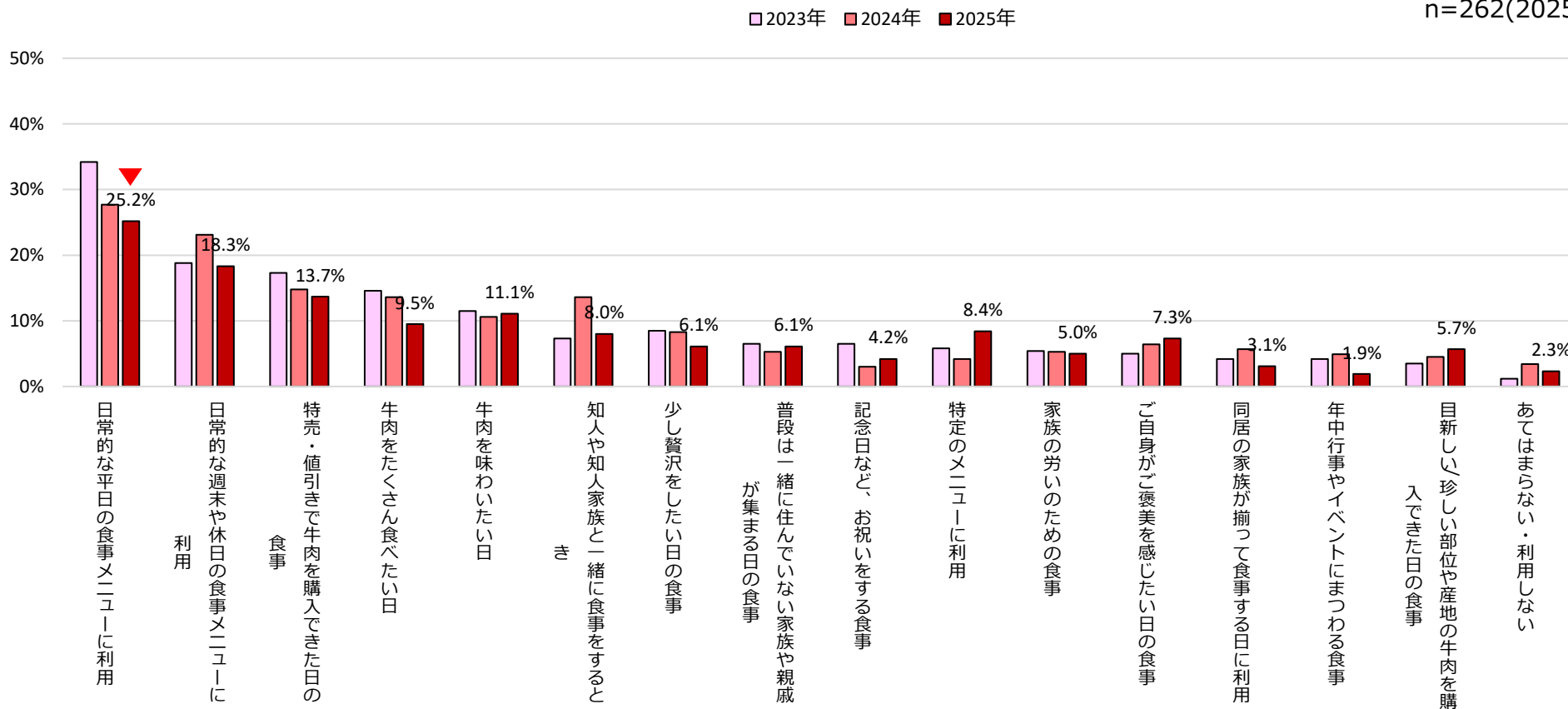
Ⅲ)②種類別の利用シーン

- 輸入派は平日・休日ともに日常的な食事メニューとして牛肉を利用する傾向。
- 最も選択率の高い「日常的な平日の食事メニューに利用」は年々微減傾向にある。

Q あなたの自宅での食事について、それぞれの牛肉を利用するシーンとして当てはまるものを全て教えてください。

輸入派：1年以内にいずれかの輸入肉だけを購入した人

n=260(2023)
n=264(2024)
n=262(2025)



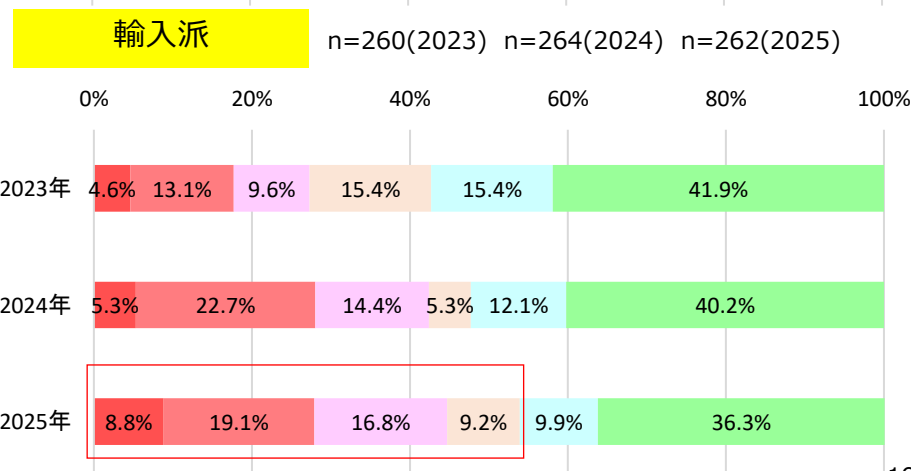
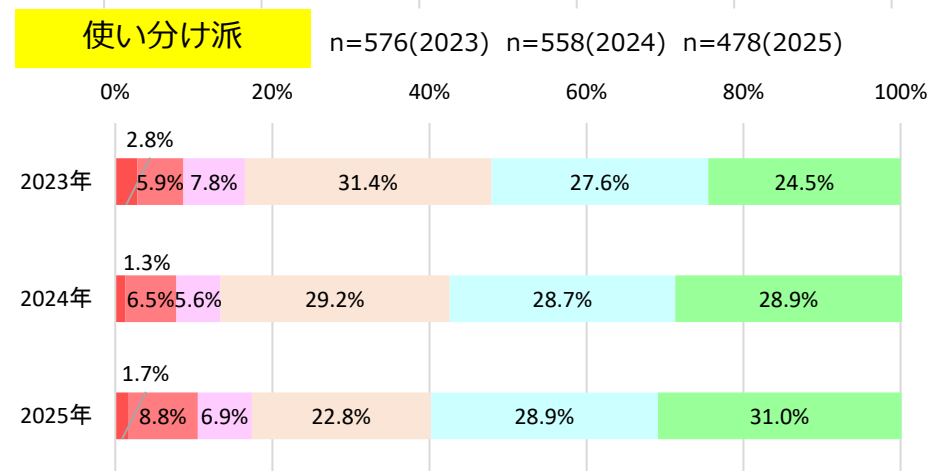
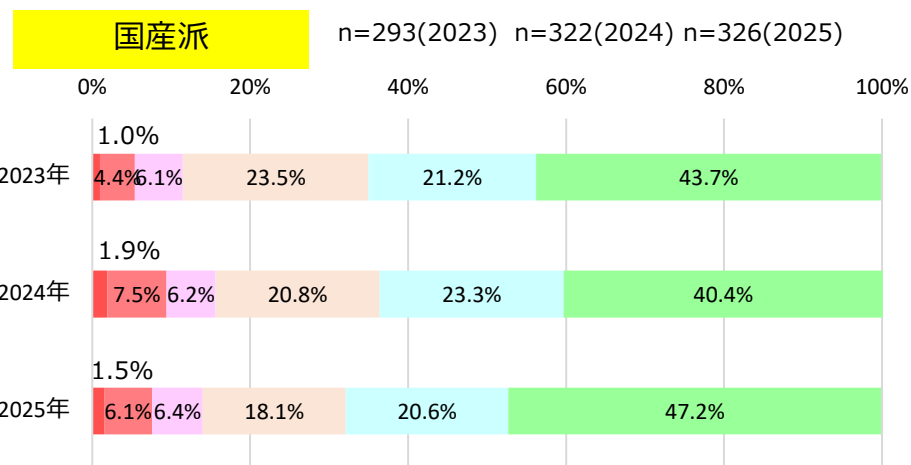
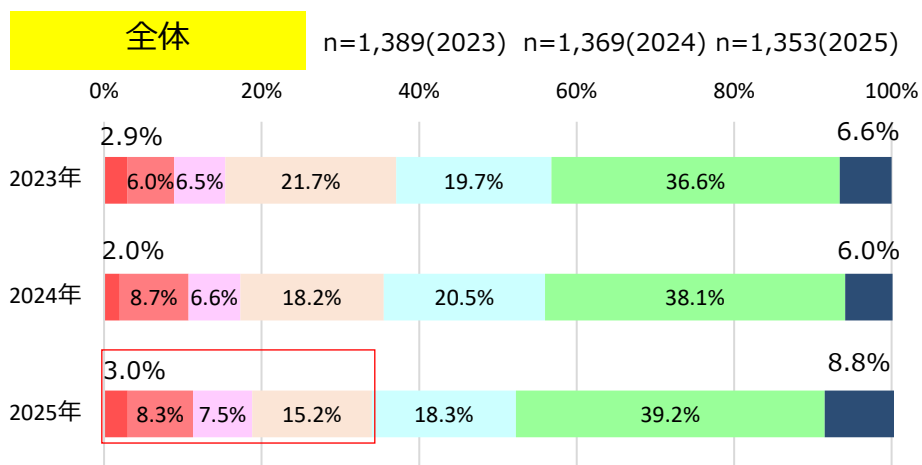
Ⅲ)③牛肉の購入頻度

■ 週1日以上牛肉を購入すると答えた人は、全体では33.7%。

■ 輸入派は週1日以上の割合が年々上昇しており、従来よりも高頻度に購入する傾向が強まっている。

Q あなたが牛肉を購入する頻度を教えてください *調査対象：主家事担当者

■ 1週間で7日 ■ 1週間のうち5～6日 ■ 1週間のうち3～4日 ■ 1週間のうち1～2日 ■ 2週間のうち1～2日 ■ それよりも少ない頻度 ■ 該当しない

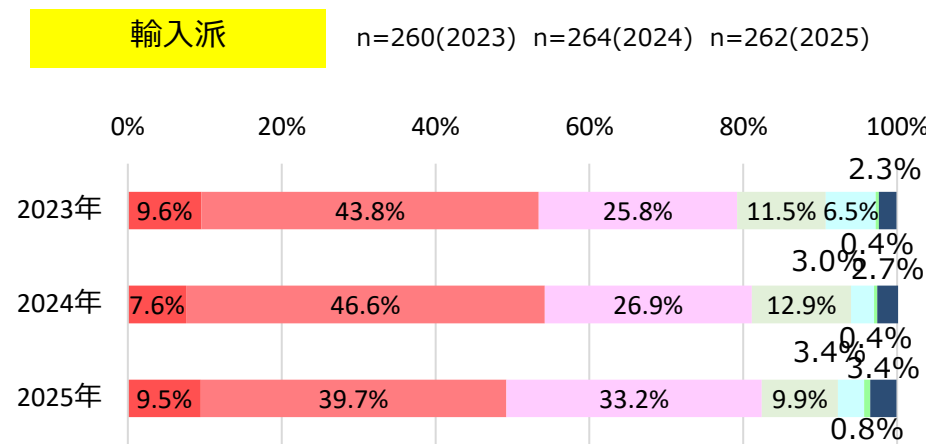
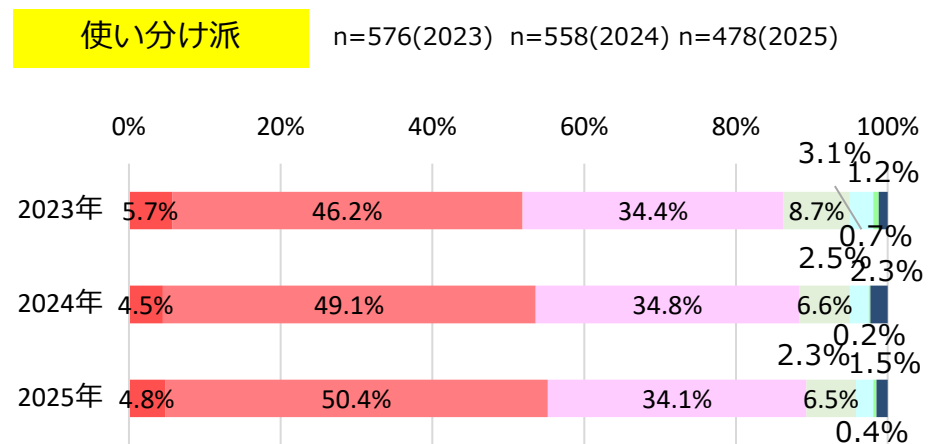
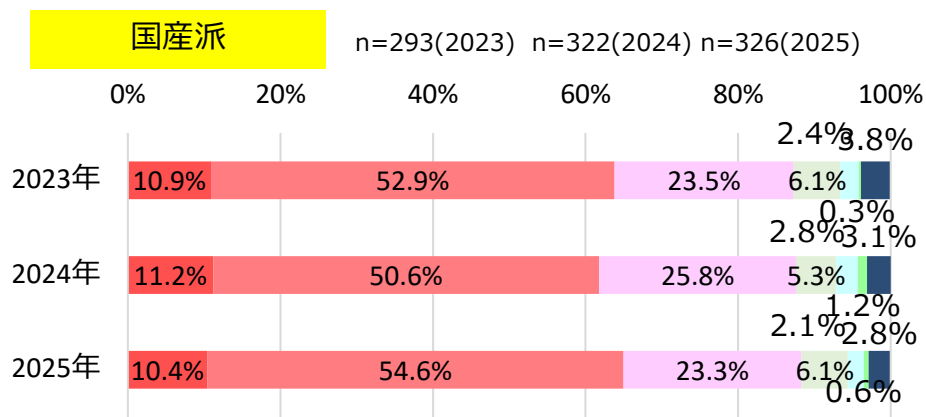
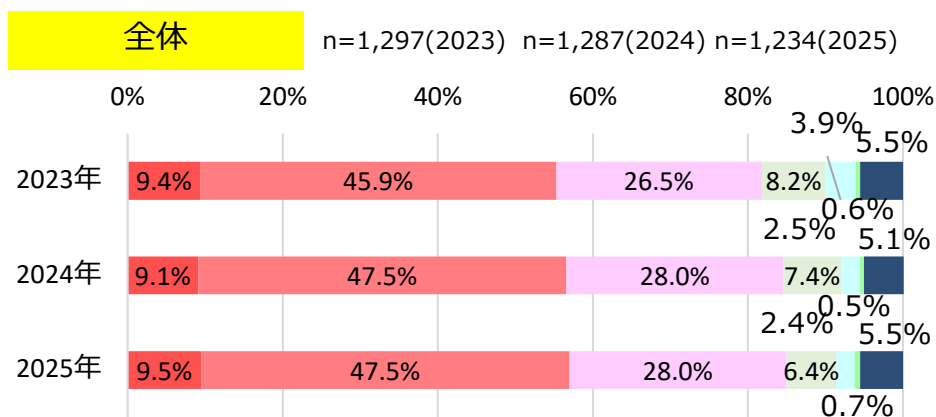


Ⅲ)④ 1回の買い物で購入する量

- 1回の買い物の購入量は、200g～300g前後が最も多い。
- 輸入派は400g～500g前後が伸びており、2022年の調査開始以降、小容量から中容量にシフトしている。

Q あなたが1回の買い物で購入する、牛肉の量に最も近いものを教えてください。 *調査対象：牛肉を購入すると答えた人

■ 小容量パック(150g以下) ■ 200g～300g前後 ■ 400g～500g前後 ■ 600g～800g前後 ■ 1kg前後 ■ それ以上 ■ わからない

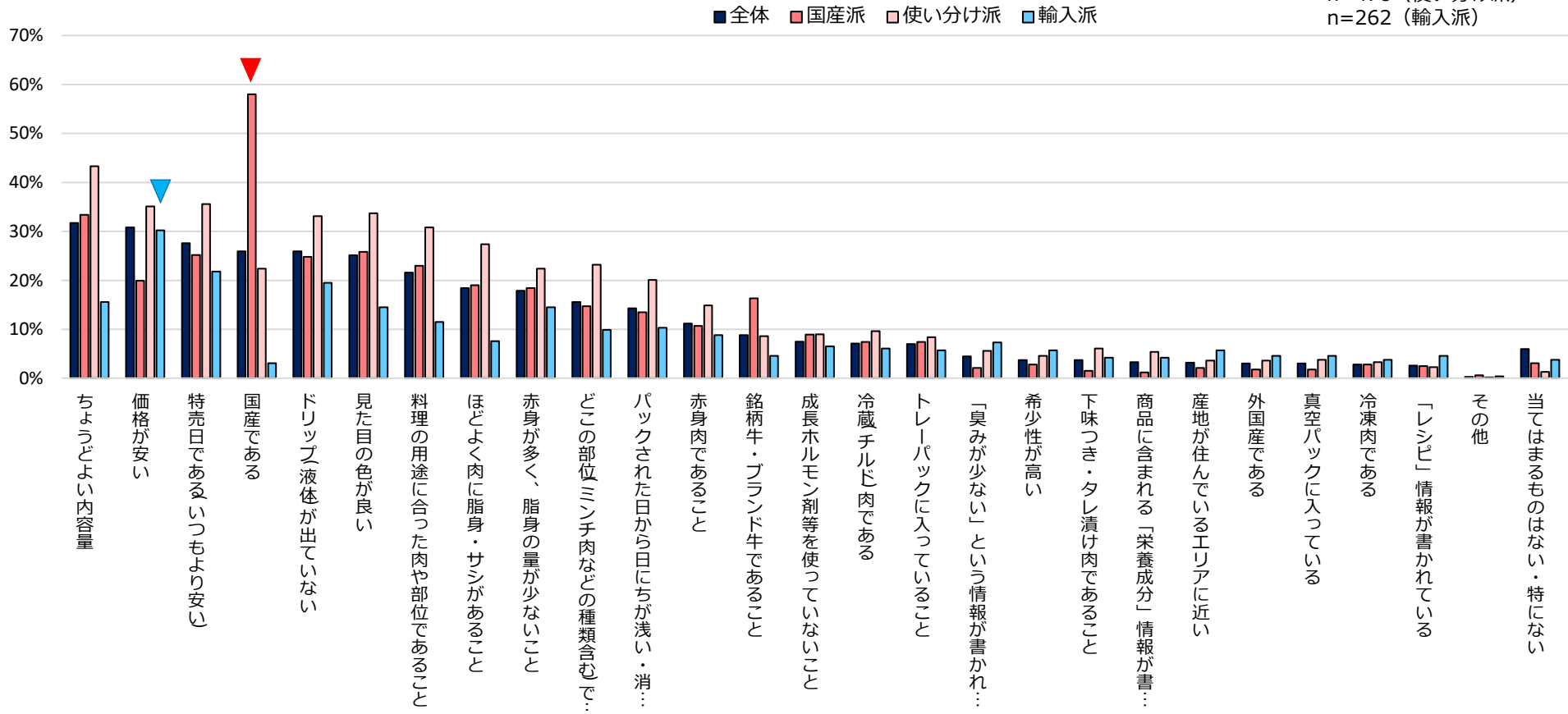


Ⅲ)⑤牛肉を買う時に重視すること

- 牛肉の購入時は、全体では内容量・価格・特売日などが重視されている。
- 和牛や国産牛を好む国産派は「国産である」こと、輸入派は価格の安さを最も重視する。
- 使い分け派は全体よりも多くの項目を重視する傾向にあり、総合的に判断して購入する牛肉を選んでいるとみられる。

Q あなたが牛肉を購入する際に重視することを教えてください。 *調査対象：牛肉を購入すると答えた人

n=1,234 (全体)
n=326 (国産派)
n=478 (使い分け派)
n=262 (輸入派)



Ⅲ)⑥-(1)和牛の購入者属性・購入した商品を食べる人

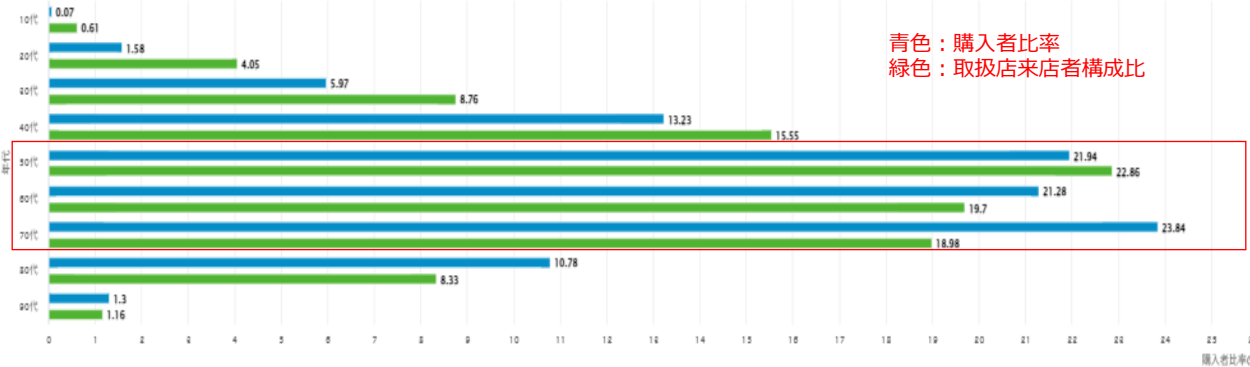
■ ID-POSデータによる和牛購入者の年代別構成比は、50~70代がボリュームゾーン。

和牛を購入しやすい世代は60代以上で、特に70代と80代が安定して購入している。

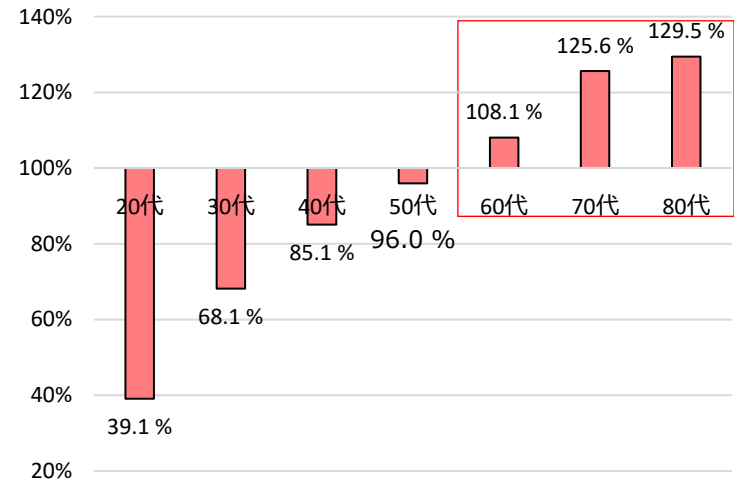
■ 購入した和牛を「子供」が食べる場合、子供が修学中の場合は30-40代の親が購入しているが、子供が就業後も50代以上の親が購入していることが分かる。

【和牛全体】 年代別購入者 構成比

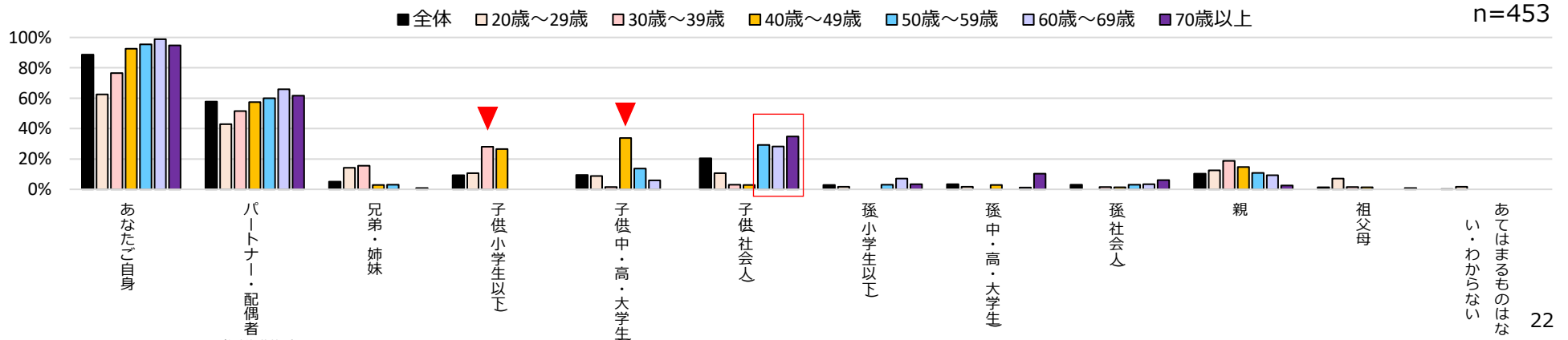
出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(和牛)
集計期間：2025年1月1日～2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



<購入者比率/取扱店来店者比率>



Q1年以内に購入した和牛について、どなたが召し上がりましたか。



Ⅲ)⑥-(2)国産牛の購入者属性・購入した商品を食べる人

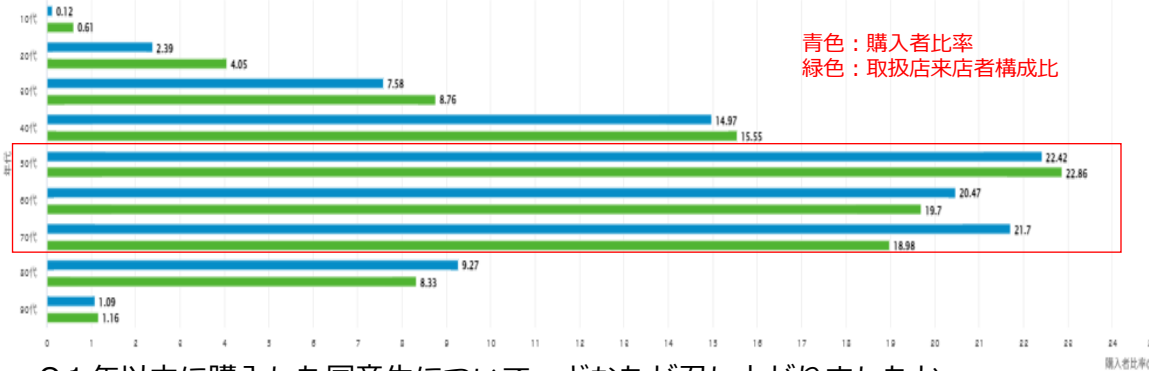
■ ID-POSデータによる国産牛購入者の年代別比較では、50~70代がボリュームゾーン。

国産牛を購入しやすい世代は60代以上で、特に70代と80代が高い。

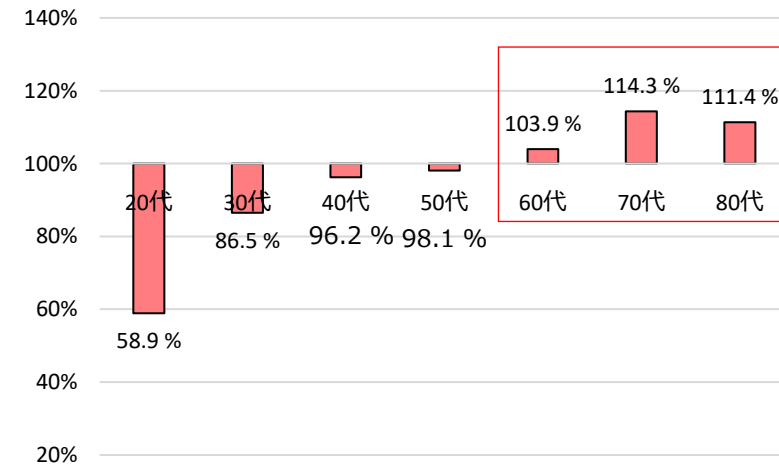
■ 購入した国産牛を「子供」が食べる場合の年代別傾向は和牛と同様だが、自分自身が食べる場合、20代は和牛よりも国産牛での選択率が高い。

【国産牛全体】 年代別購入者 構成比

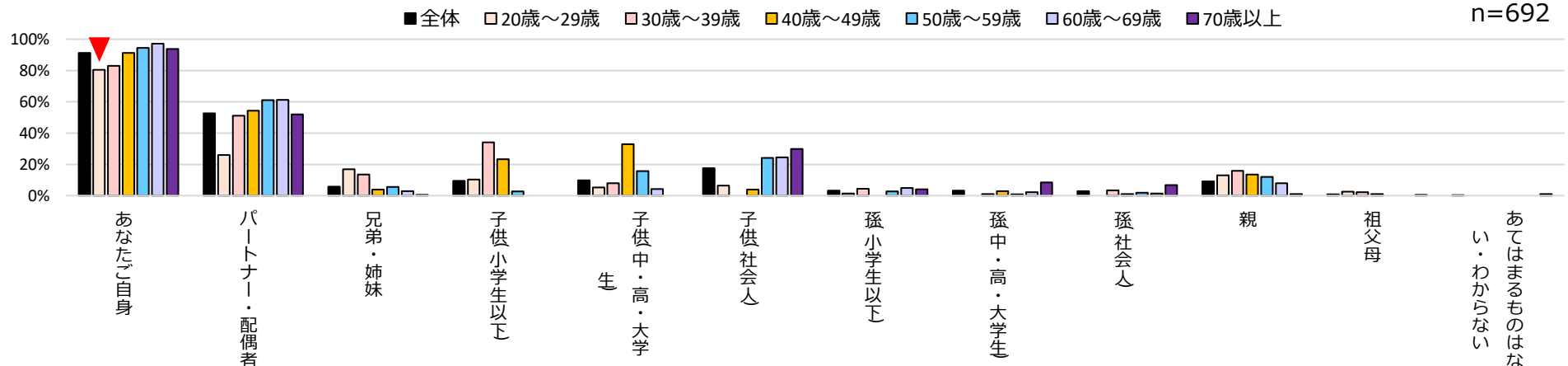
出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(国産牛)
集計期間：2025年1月1日～2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



＜購入者比率/取扱店来店者比率＞



Q1年以内に購入した国産牛について、どなたが召し上がりましたか。

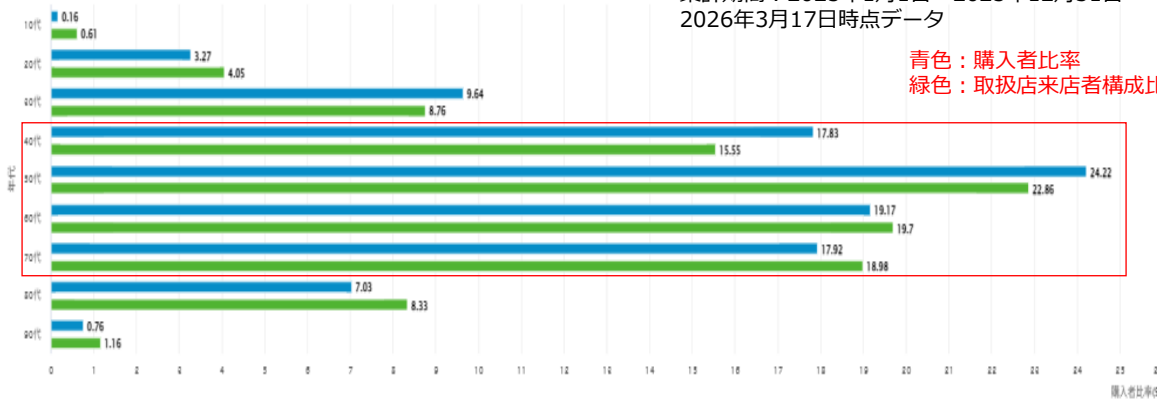


Ⅲ)⑥-(3)輸入牛の購入者属性・購入した商品を食べる人

- 輸入牛の購入者のボリュームゾーンは、40~70代まで幅広く、特に購入しやすい世代は30~50代。
- 購入した輸入牛(オーストラリア産)の喫食者は、国産牛と同傾向で大きな差は見られない。

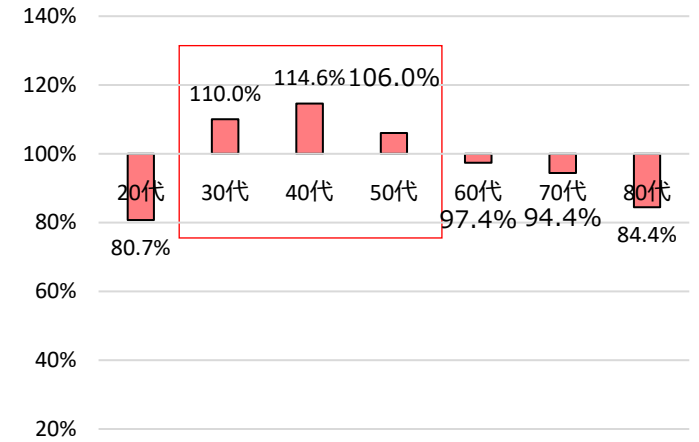
【輸入牛全体】 年代別購入者 構成比

出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(輸入牛)
集計期間：2025年1月1日～2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



青色：購入者比率
緑色：取扱店来店者構成比

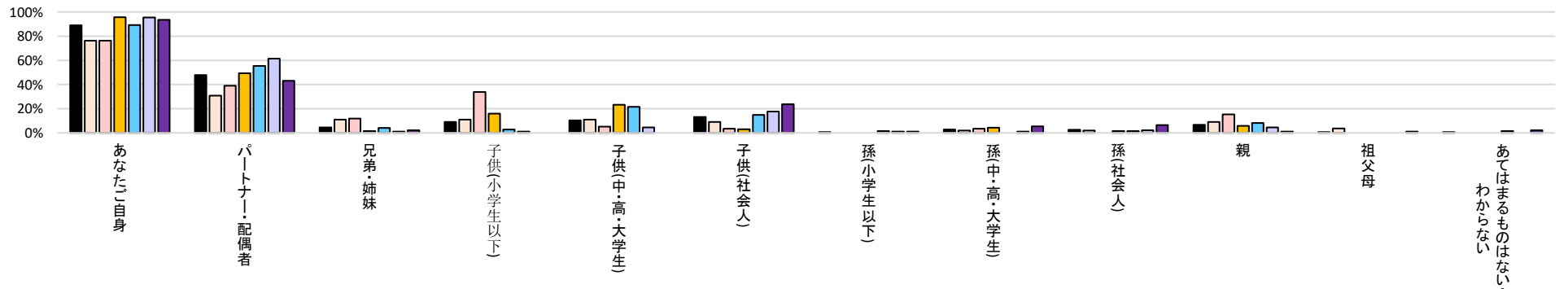
<購入者比率/取扱店来店者比率>



Q1年以内に購入した輸入牛（オーストラリア産）について、どなたが召し上がりましたか。

n=441

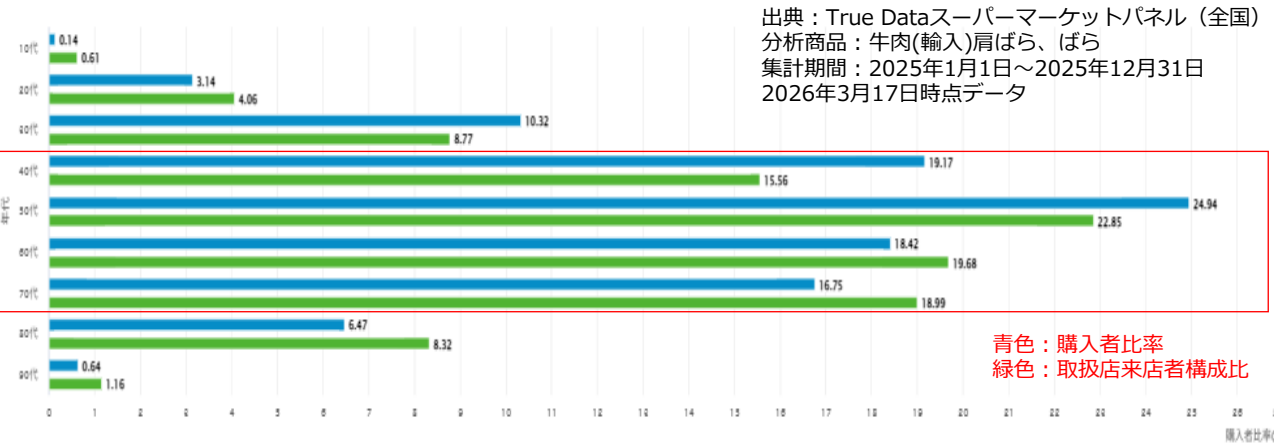
■全体 □20歳～29歳 □30歳～39歳 ■40歳～49歳 ■50歳～59歳 □60歳～69歳 ■70歳以上



Ⅲ)⑦-(1)輸入牛 部位別の購入者属性

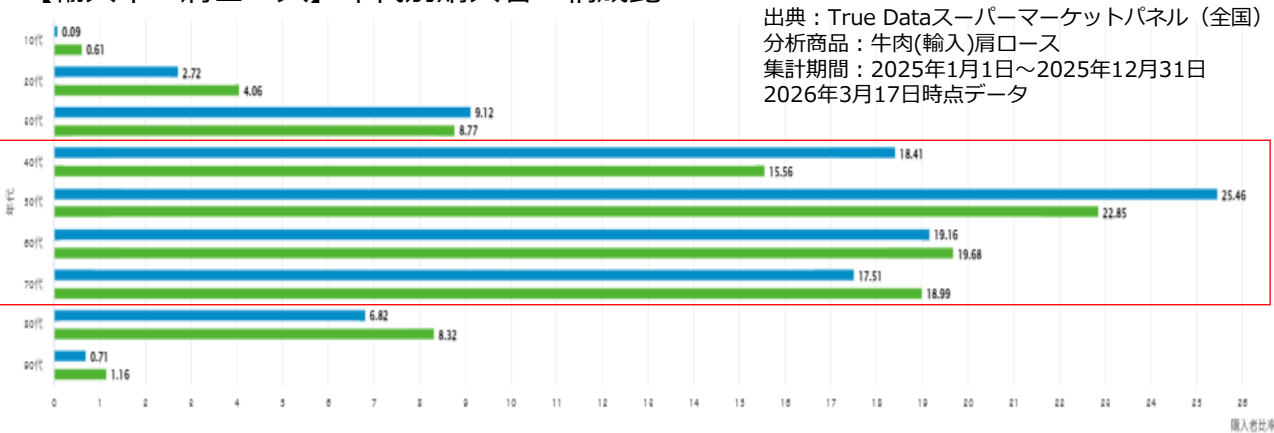
■ 輸入牛肩ばら・ばらおよび肩ロースの購入者の年代のボリュームゾーンはともに40~70代で、購入しやすい層も30~50代と似通っているが、肩ばら・ばらの方が比較的安価であることも多く、特に30代では購入のハードルが低いとみられる。

【輸入牛 肩ばら・ばら】年代別購入者 構成比

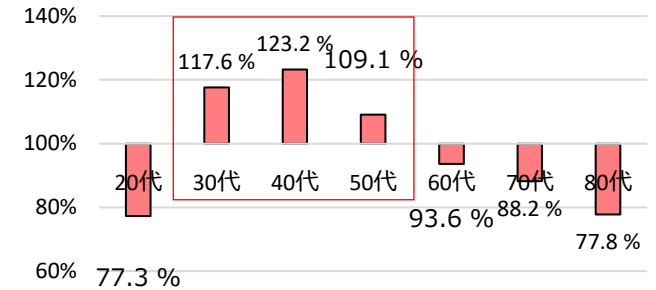


青色：購入者比率
緑色：取扱店来店者構成比

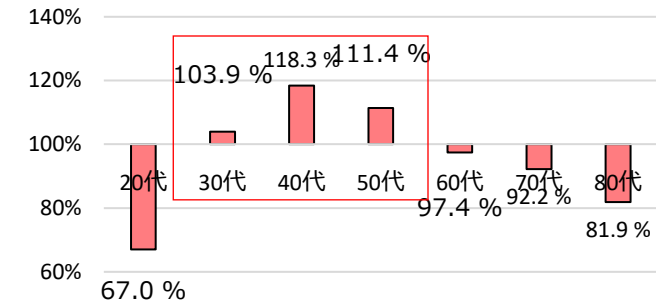
【輸入牛 肩ロース】年代別購入者 構成比



<購入者比率/取扱店来店者比率>



<購入者比率/取扱店来店者比率>

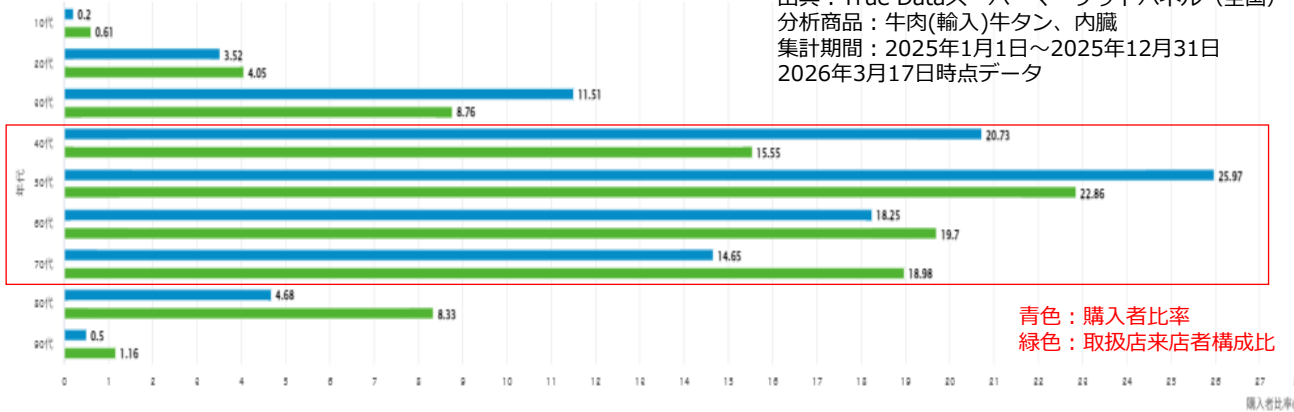


Ⅲ)⑦-(2)輸入牛 部位別の購入者属性

- 輸入牛タン・内臓肉の購入者のボリュームゾーンは40~70代と幅広いが、特に購入しやすいのは30~50代。
- 輸入牛ホルモンの購入者のボリュームゾーンは40~70代と牛タン・内臓肉と同様だが、購入しやすい層は40代と50代が中心。

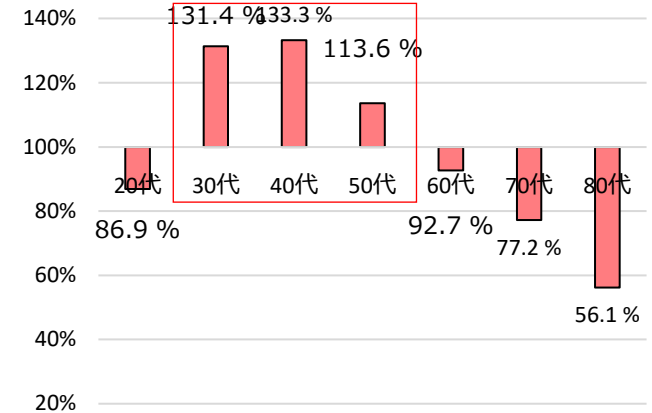
【輸入牛 牛タン・内臓肉】年代別購入者 構成比

出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(輸入)牛タン、内臓
集計期間：2025年1月1日~2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



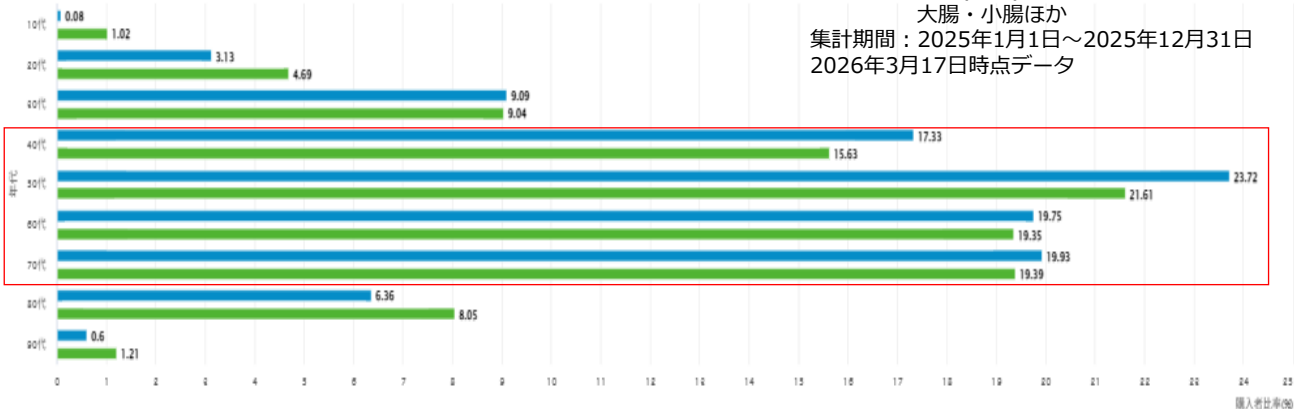
青色：購入者比率
緑色：取扱店来店者構成比

<購入者比率/取扱店来店者比率>

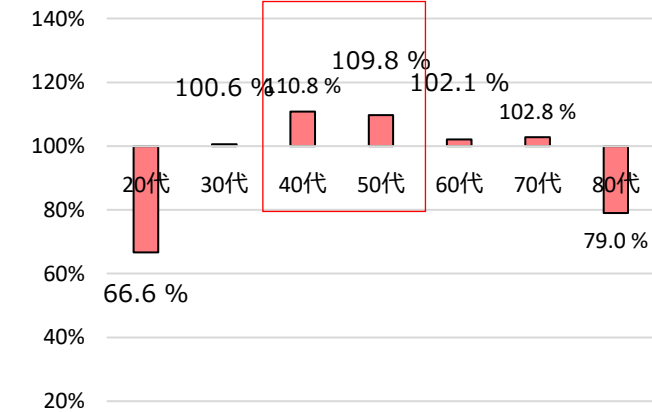


【輸入牛 牛ホルモン】年代別購入者 構成比

出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(輸入)牛ホルモン、シマチョウ
大腸・小腸ほか
集計期間：2025年1月1日~2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



<購入者比率/取扱店来店者比率>

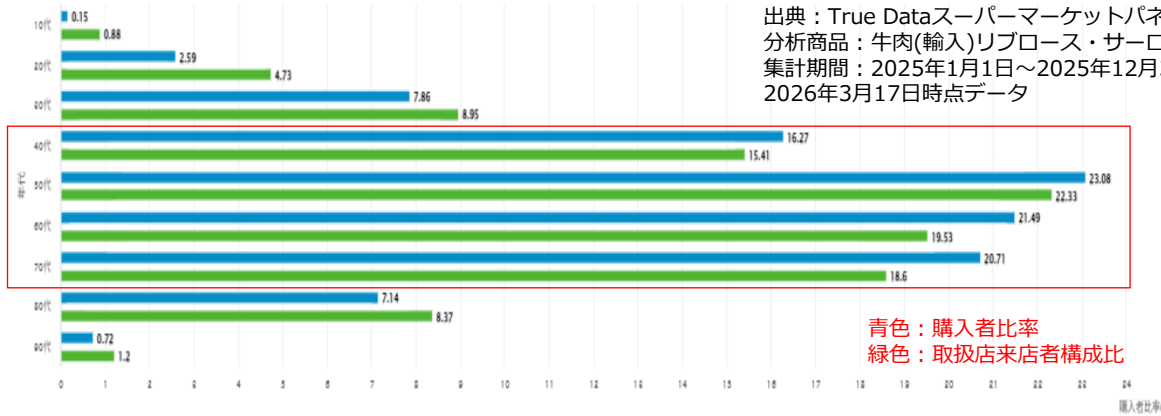


Ⅲ)⑦-(3)輸入牛 部位別の購入者属性

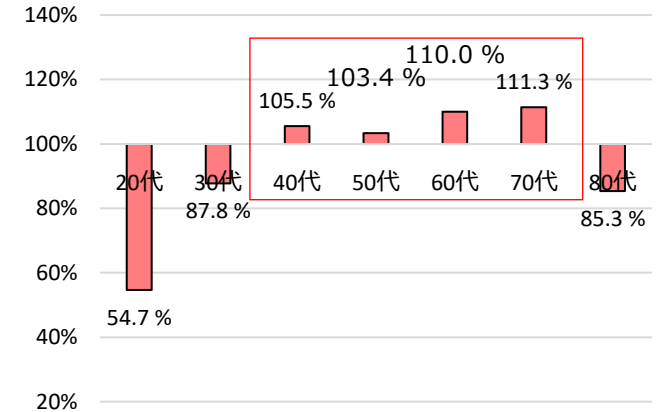
■ 輸入牛のリブローズ・サーロイン購入者のボリュームゾーンおよび購入しやすい層はともに40~70代。

【輸入牛 リブローズ・サーロイン】年代別購入者 構成比

出典：True Dataスーパーマーケットパネル（全国）
分析商品：牛肉(輸入)リブローズ・サーロイン
集計期間：2025年1月1日~2025年12月31日
2026年3月17日時点データ



<購入者比率/取扱店来店者比率>



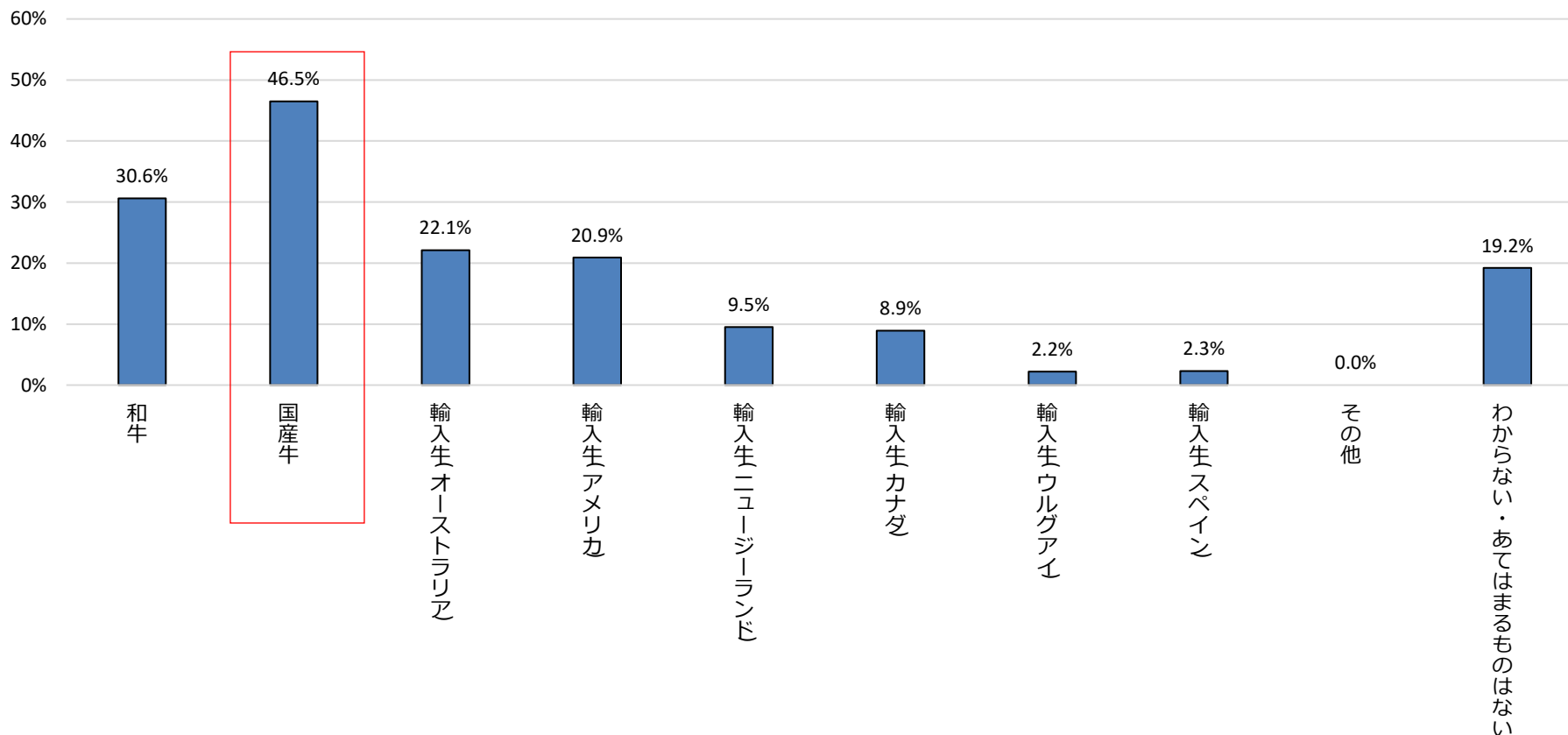
Ⅲ)⑧値上げを実感する牛肉

- 値上げを実感する牛肉として最も高いのは「国産牛」、次いで「和牛」、「輸入牛（オーストラリア産・アメリカ産）」の順。
- 値上げを実感しない等と回答した人は2割程度。

Q あなたがここ1年以内で購入したもののうち、「値上げを実感するもの」について、以下の中からあてはまるものを全て選んでください。

*調査対象：1年以内に、いずれかの牛肉を購入した人

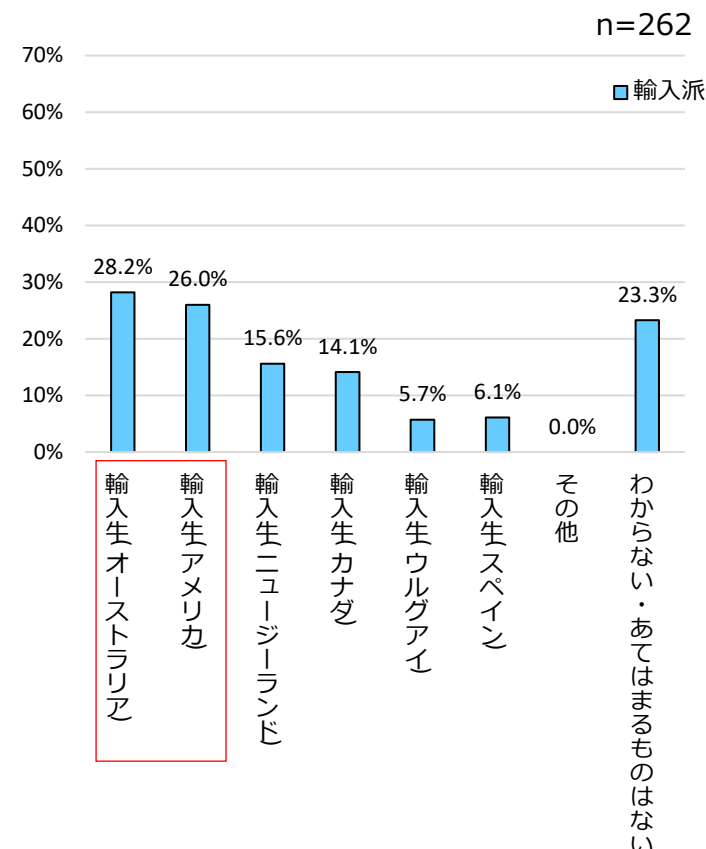
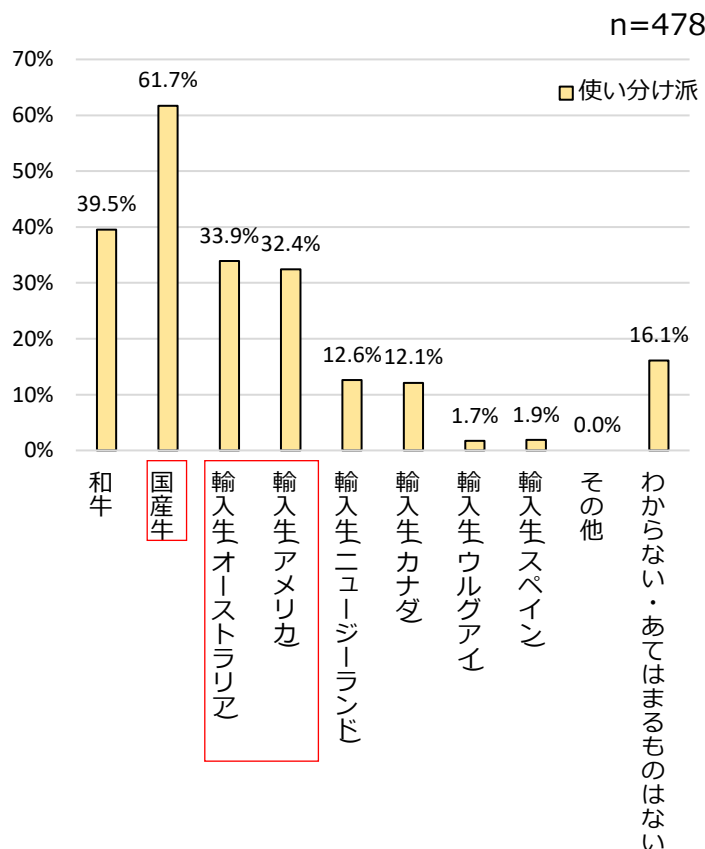
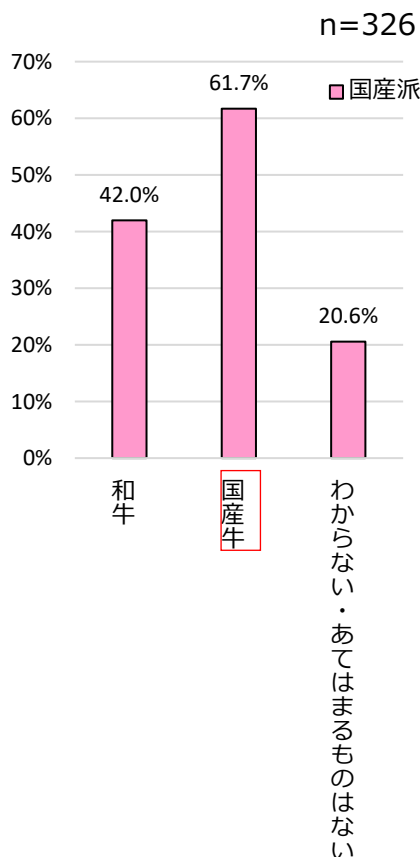
n=1,066



Ⅲ)⑧値上げを実感する牛肉

- 国産派・使い分け派は、国産牛に対して値上げを実感している人が6割超えで最も高い。
- 使い分け派・輸入派は、オーストラリア産やアメリカ産の値上げを実感する人が3割前後、値上げを実感しない等と回答した人も2割前後いる。

Q あなたがここ1年以内で購入したもののうち、「値上げを実感するもの」について、以下の中からあてはまるものを全て選んでください。



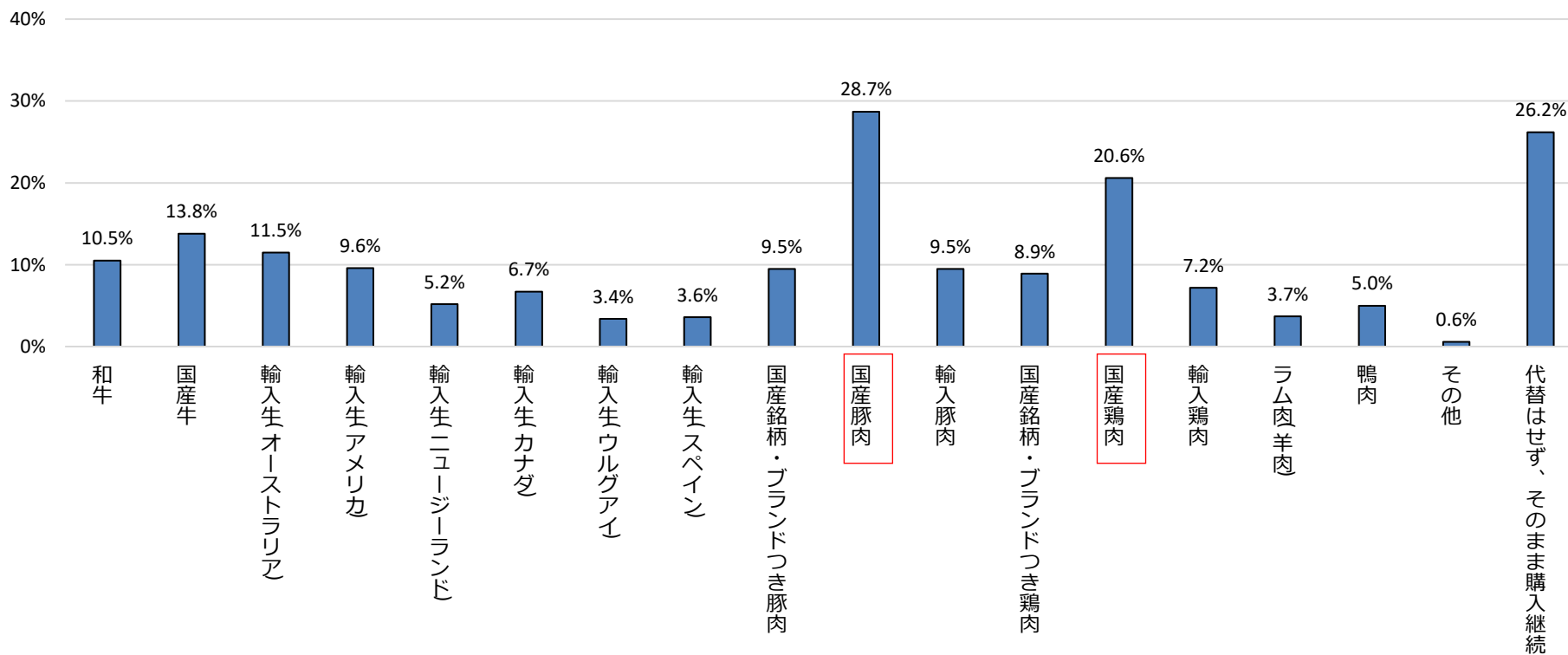
Ⅲ)⑨値上げを実感している各種牛肉の代替品

- 値上げを実感する牛肉の代替品は「国産豚肉」や「国産鶏肉」を購入する人が多く 2 割から 3 割程度。
- 「代替はせず、そのまま継続購入」すると答えた人は「国産豚肉」に次いで高い。

Q あなたが、値上げを実感している各種牛肉の「代替品として」購入することがあるものを教えてください。

n=861

*調査対象：1年以内に、いずれかの牛肉を購入した人のうち、値上げを実感する牛肉について回答した人

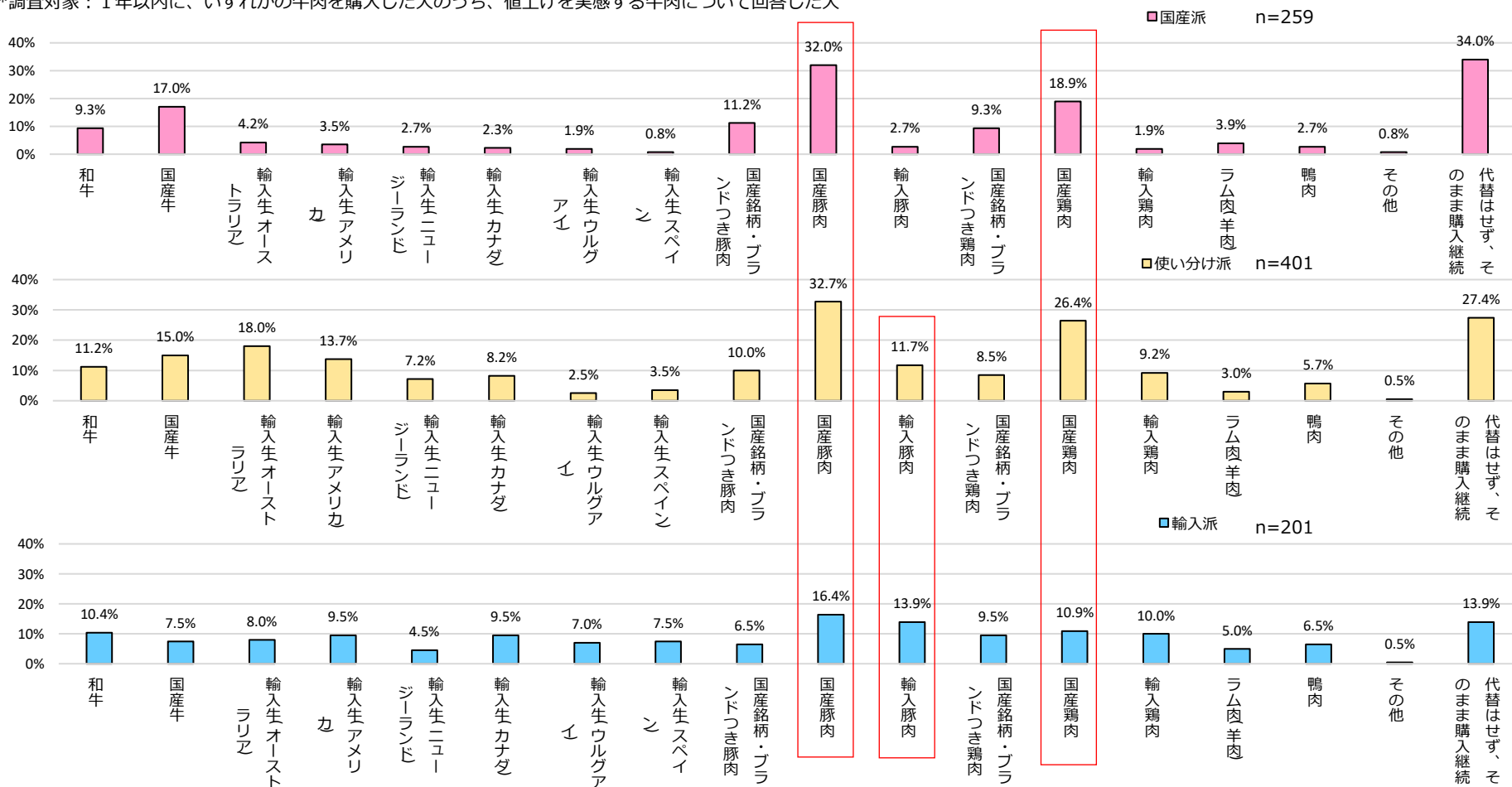


Ⅲ)⑨値上げを実感している各種牛肉の代替品

- 国産派・使い分け派・輸入派は牛肉の代替品として「国産豚肉」「国産鶏肉」の選択率が高い。
- 使い分け派・輸入派は「輸入豚肉」がそれぞれ10%超え。
- 国産派は牛肉の継続購入の意向が高く、輸入派は輸入牛も含めて満遍なく選択する傾向にある。

Q あなたが、値上げを実感している各種牛肉の「代替品として」購入することがあるものを教えてください。

*調査対象：1年以内に、いずれかの牛肉を購入した人のうち、値上げを実感する牛肉について回答した人

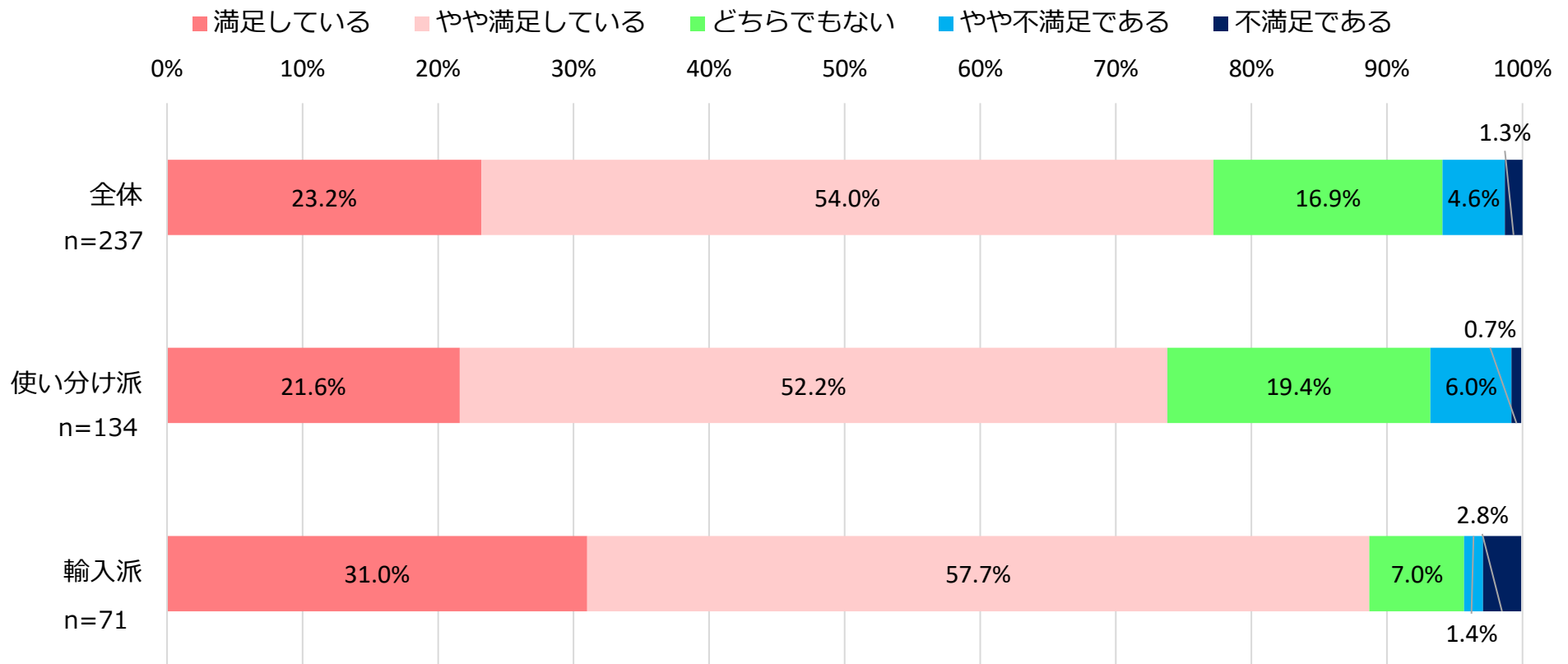


Ⅲ)⑩牛肉の代替品として「輸入牛」を購入する時の気持ち たんぱく質を、もっと自由に。 Nipponham Group Vision 2030

- 全体では8割弱が牛肉の代替品として輸入牛に「満足・やや満足している」。
- 使い分け派・輸入派ともに「不満足・やや不満足である」の割合は全体と大きく変わらない。

Q 値上げを実感している牛肉の代替品として、「輸入牛」を購入する時のあなたの気持ちとして当てはまるものを以下の中から選んでください。

*調査対象：値上げを実感している牛肉の代替品として、いずれかの「輸入牛」を購入すると答えた人

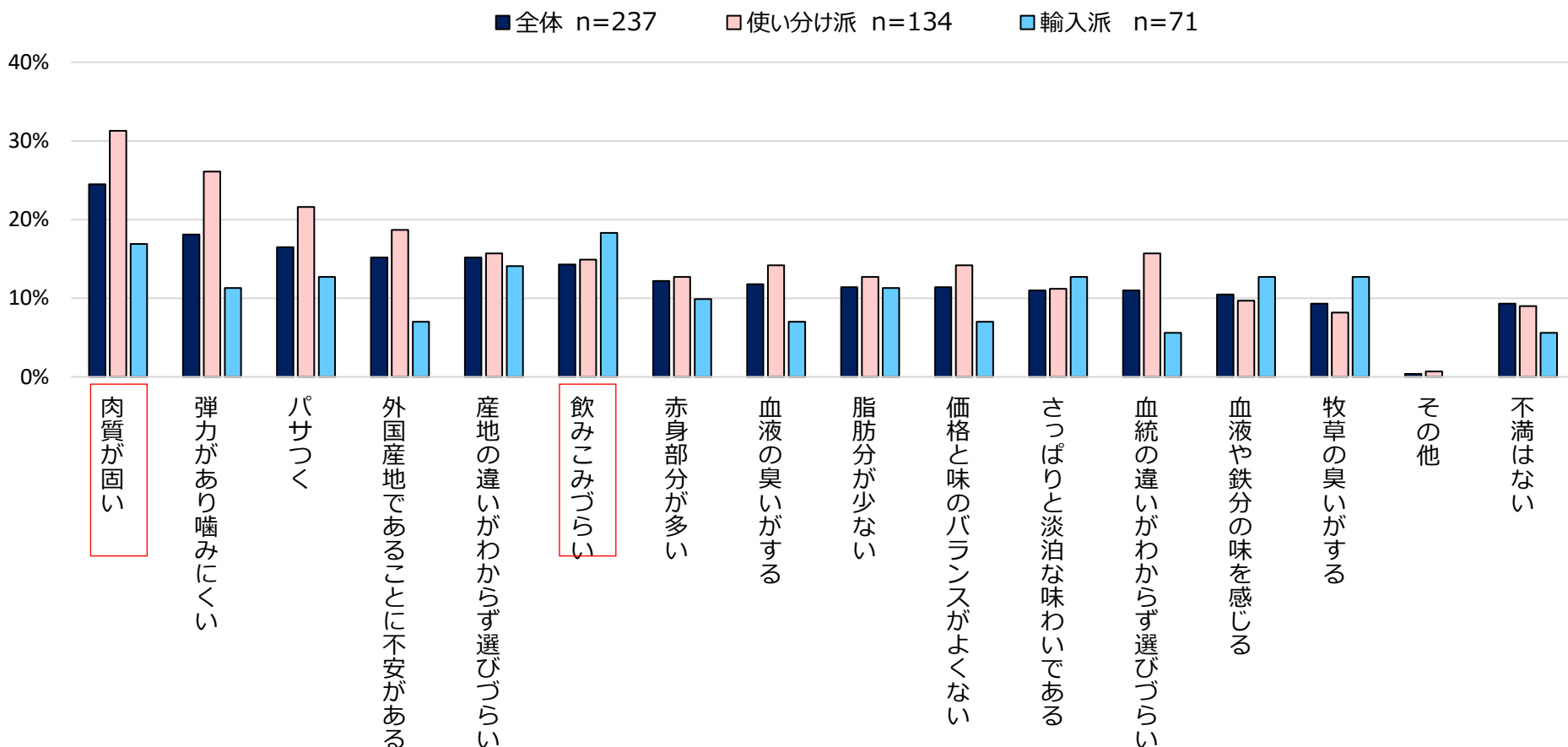


Ⅲ) ⑪牛肉の代替品として「輸入牛」を購入する時の不満

- 牛肉の代替品として輸入牛を購入するときの不満は「肉質が固い」が最も高く、特に使い分け派は3割が不満を感じている。
- 輸入派は「飲みこみづらい」が全体や使い分け派よりもやや高い。

Q 値上げを感じる牛肉の代替品として「輸入牛」を買う際に、不満を感じることがあれば教えてください。

*調査対象：値上げを実感している牛肉の代替品として、いずれかの「輸入牛」を購入すると答えた人



Ⅲ)Point-(3) 牛肉の調理について

- 牛肉の調理頻度は、週1日以上と答える人が全体の4割弱。
週5～6日調理する人の割合は変わらないが、週1～2日程度が微減傾向。
「輸入派」は週1日以上調理をする人が5割超えて、年々増加傾向。
- 調理頻度が高い部位・形態は「バラ(カルビ)小間切れ・切り落とし」「モモ細切れ・切り落とし」などの汎用性の高い部位が3割弱。
特定メニュー用の部位・種類では「しゃぶしゃぶ・すき焼き用」が高く2割程度。
- 調理時の不満は、全体では「火を通すと肉が固くなる」がトップ。
全体で上位の不満は「使い分け派」の選択率が高く、特に「肉が固くなる・縮みやすい」など調理時・調理後の肉質に対する不満の高さが目立つ。

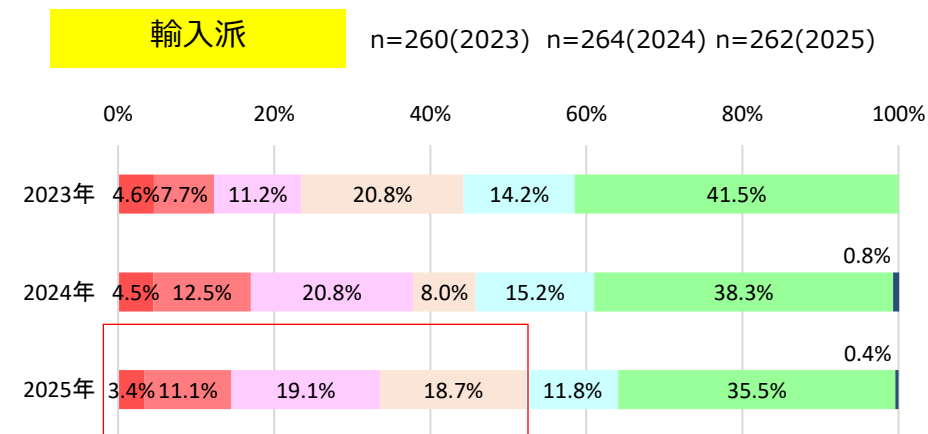
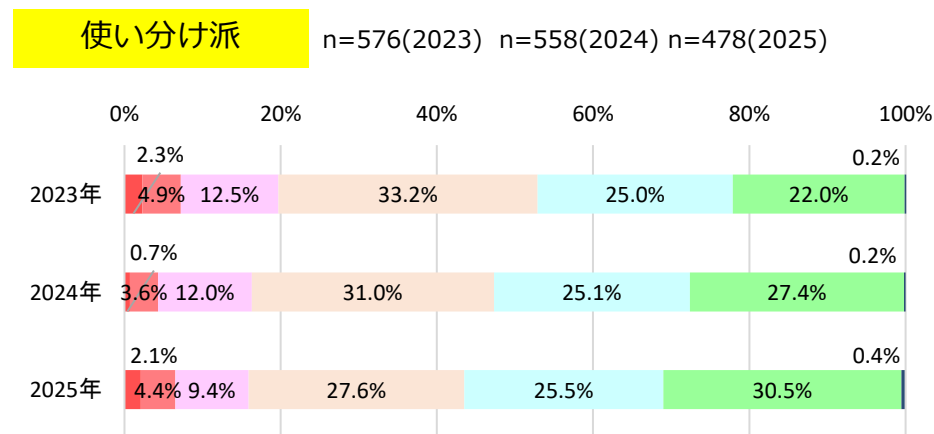
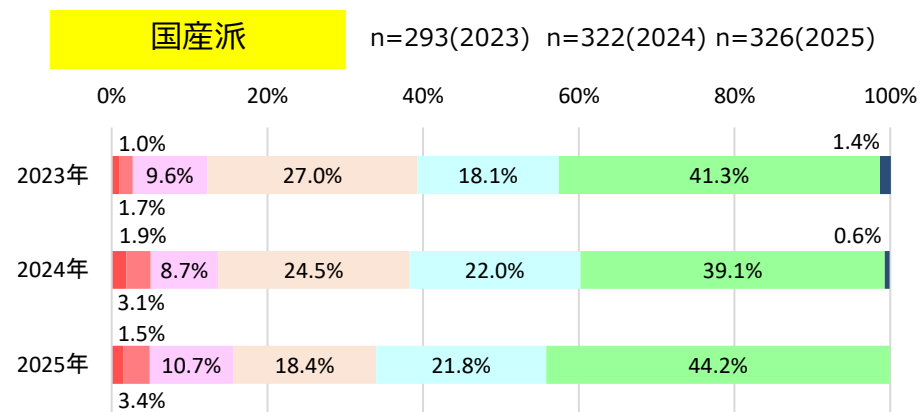
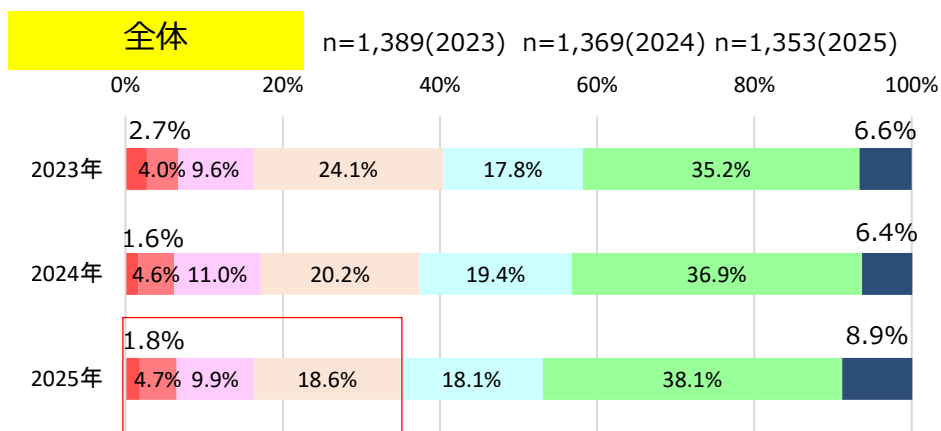
Ⅲ) ⑫牛肉の調理頻度

■ 週1日以上牛肉を調理する人は全体の4割弱。週5～6日調理する人の割合は変わらないが、週1～2日程度が微減傾向。

■ 輸入派は、週1日以上調理をする人が5割超えて、年々増加傾向。

Q あなたが牛肉を購入する頻度、調理する頻度をそれぞれ教えてください。 *調査対象：主家事担当者

■ 1週間で7日 ■ 1週間のうち5～6日 ■ 1週間のうち3～4日 ■ 1週間のうち1～2日 ■ 2週間のうち1～2日 ■ それよりも少ない頻度 ■ 該当しない



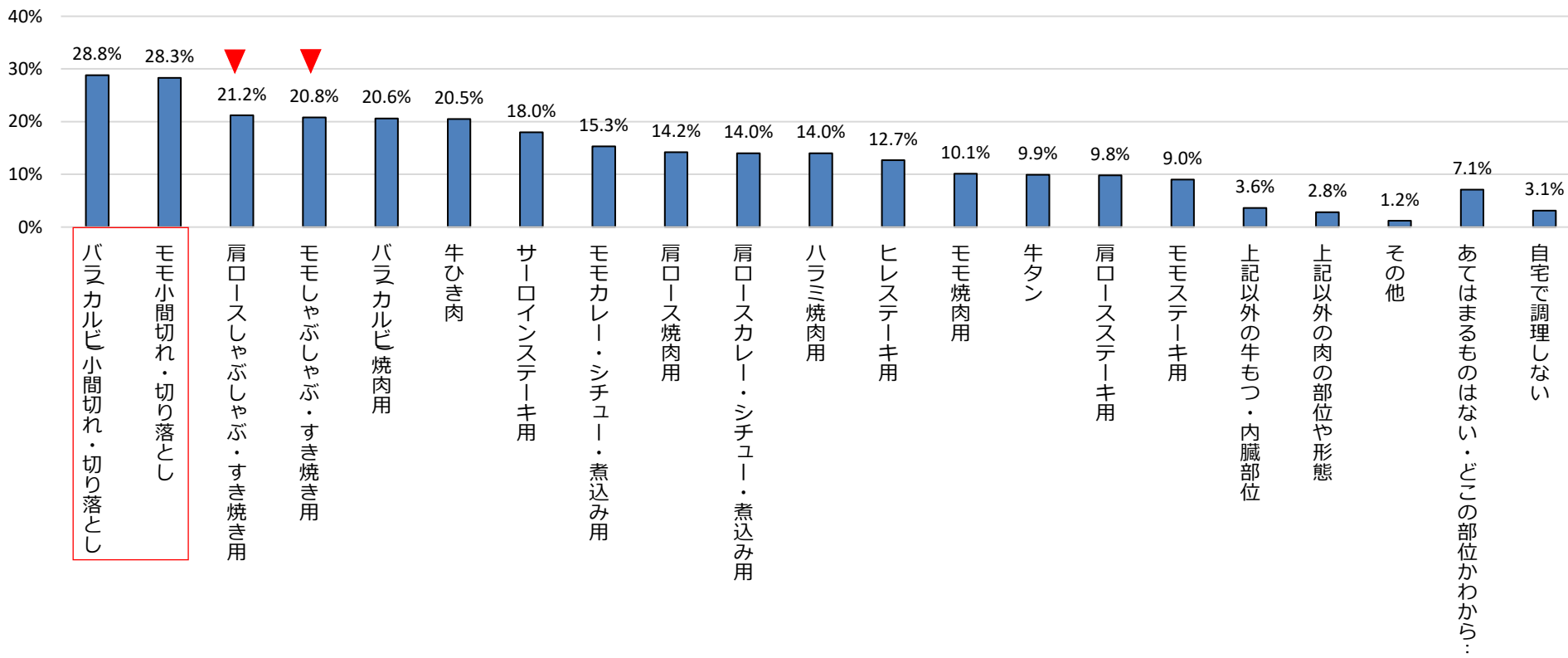
Ⅲ)⑬ 自宅で調理する頻度が高い牛肉の部位・形態

- 調理頻度が高い部位・形態は「バラ(カルビ)小間切れ・切り落とし」「モモ細切れ・切り落とし」などの汎用性の高い部位が3割弱。
- 特定メニュー用の部位・種類では「しゃぶしゃぶ・すき焼き用」が高く2割程度。

Q あなたが自宅等で調理する牛肉の部位や種類について、調理する頻度が高いものを全て選んでください。

*調査対象：牛肉を調理すると答えた人

n=1,233



Ⅲ)⑭ 自宅で牛肉を調理する際の不満点

- 調理時の不満点は、全体では「火を通すと肉が固くなる」がトップ。
- 全体で上位の不満は使い分け派の選択率が高く、特に「肉が固くなる・縮みやすい」など調理時・調理後の肉質に対する不満の高さが目立つ。

Q 牛肉を調理する際の、不満点があれば教えてください。 *調査対象：牛肉を調理すると答えた人

